

「頼山陽書翰集」全総目次

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
第一編 寛政九年(18歳)～文化三年(27歳)					
1	寛政9/3/14	梅颯	上巻3	江戸遊学の第一歩	25
2	寛政10/3/21	春水	上巻5	江戸より帰藩の予告	26
3	寛政11/12/18	武元北林(武元勇次)	上巻7	忘年の益友	27
4	寛政12/6/20	頼春風	上巻10	文章の練習	29
5	文化元/6/20	石井豊洲(儀右衛門)	上巻13	幽屏解放後の抱負	30
6	文化元/7/4	石井豊洲	上巻16	狂夢一覚	32
7	文化2/1/3	頼杏坪	上巻19	在江戸の亀井昭陽・頼養堂	33
8	文化2/9/10	頼春風	上巻21	ありがたき教訓	34
9	文化2/10/17	片雲上人(照蓮寺上人)	上巻22	竹原の静養	35
10	文化2/12/13	菅茶山	上巻24	先生の同情	36
11	文化3/5/27	頼春風	上巻28	春水の薬方と灸治	38
第2編 文化四年(28歳)～文化7年(31歳)					
12	文化4/3/11	池口愚亭(子継)	上巻31	修史は徳川三代将軍迄	40
13	文化4/5/14	亀井昭陽(亀井元鳳)	上巻34	名教の維持	42
14	文化4/6/11	片雲上人(照蓮上人)	上巻37	獅絃上人の病気見舞	43
15	文化4/7/3	石井豊洲(儀卿)	上巻39	「丁卯遊志」の評	44
16	文化5/3/29	池口愚亭(池口子継)	上巻41	露艦の来寇に就て	45
17	文化5/5/26	雲華上人	上巻45	詩は実情派	47
18	文化5/6/14	進藤彦助(吉之助)	上巻47	親戚の情話	48
19	文化5/10/11	菅茶山	上巻48	露・英両国通商の風聞	49
20	文化5/11/13	菅茶山	上巻50	節酒の忠言	50
21	文化6/3/11	池口愚亭(池口子継)	上巻54	漂着朝鮮人の文書	52
22	文化6/12/17	野坂梅園(子幹)	上巻56	金子借用	53
23	文化7/4/17	頼春風	上巻61	廉塾生活	55

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
24	文化7/7/26	築山嘉平(築山奉盈)	上巻63	運命の開拓	56
25	文化7/9/25	常屋治右衛門	上巻75	茶山の代筆	62
第三編 文化八年(32歳)～文化九年(33歳)					
26	文化8/2/4	菅徴卿(菅良平)	上巻77	上京引留の忠告に対して	64
27	文化8/3/4	小石元瑞	上巻78	紋所の好み	65
28	文化8/4/15	小石元瑞	上巻80	はじめての京住居	66
29	文化8/ /13	小石元瑞	上巻82	家塾の新設	67
30	文化8/ /21	小石元瑞(蘭斎)	上巻83	新塾の開講	67
31	文化8/5/9	篠崎小竹(承弼)	上巻85	入京の心事	68
32	文化8/5/20	篠崎小竹	上巻87	隣の娘	69
33	文化8/6/2、15	頼春風	上巻89	新生活の実況	70
34	文化8/9/18	篠崎小竹	上巻95	外史論賛の材料(其一)	73
35	文化8/10/29	市河米菴(市川三亥)	上巻100	毒虫にさわる京儒者	76
36	文化8/11/16	篠崎小竹	上巻102	外史論賛の材料(其二)	77
37	文化8/ /	石井豊洲(石井儀右衛門)	上巻106	覇を京師に称せん	79
38	文化9/2/27	市河米菴(孔陽)	上巻108	関東勢の声援	80
39	文化9/3/21	菅茶山(菅太中)	上巻110	先生の不機嫌	81
40	文化9/6/15	小石元瑞	上巻118	ひげんに悩む土肥甚五郎	85
41	文化9/6/22	小石元瑞	上巻120	天神祭に下坂	86
42	文化9/11/26	頼春風,石井豊洲(儀卿)	上巻121	播州遊歴	86
第四編 文化十年(34歳)					
43	文化10/1/25	金山重左衛門(士紹)	上巻127	播州遊歴の釈明	90
44	文化10/5/1	頼春風	上巻129	勘気御免に父子対面	91
45	文化10/5/1	菅茶山	上巻132	父子対面の調停	93
46	文化10/7/5	梅颯,頼景讓(権次郎)	上巻135	その記念に青貝の書架	94
47	文化10/8/27	頼景讓(権次郎)	上巻140	遊歴の予告	97

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
48	文化10/10/	小石元瑞	上巻141	美濃・伊勢へ遊歴	97
49	文化10/10/6	小野移山亭(小野本太郎)	上巻143	中国遊歴は仕損ひ	98
50	文化10/閏11/2	江馬蘭斎	上巻145	大垣へ二度	99
51	文化10/11/12	江馬蘭斎	上巻147	名古屋に交通本部	100
52	文化10/12/	菅茶山	上巻149	旅程の詩報	101
第五編 文化十一年(35歳)					
53	文化11/1/7	菅徴卿(良平)	上巻153	旧藩先侯の喪中	104
54	文化11/1/8	小野移山亭	上巻154	半截は扇子二本と同額	105
55	文化11/1/27	江馬細香	上巻155	帰京後の第一信	105
56	文化11/1/29	今井宗右衛門	上巻157	唐硯を手に入れんと	106
57	文化11/3/4	江馬細香	上巻160	才媛を歓迎	108
58	文化11/3/6	村瀬藤城(子錦)	上巻161	京儒は古顔のおやぢばかり	108
59	文化11/4/19	江馬細香	上巻163	習字の心得	109
60	文化11/5/27	江馬細香	上巻165	骨董三昧	110
61	文化11/6/17	江馬細香	上巻167	古墨の物色	111
62	文化11/7/15	菅茶山	上巻169	学問・読書	112
63	文化11/ /	江馬細香	上巻172	播州より墨竹所望	114
64	文化11/7/18	江馬細香	上巻173	書画一致	114
65	文化11/8/2	江馬細香	上巻174	帰省の予定	115
66	文化11/8/9	甲斐士幹(文貞)	上巻176	長崎の人情	116
67	文化11/8/10	片山九畹(於蘭)	上巻178	越の白絹	117
68	文化11/8/12	江馬細香	上巻181	矢立の筆にて添削	118
69	文化11/8/16	小野移山亭(小野本太郎)	上巻182	訪問は帰りがけ(其一)	119
70	文化11/9/10	正善坊宗瑞	上巻184	家内の小酌	120
71	文化11/9/14	百々俊道	上巻185	古書画の口きゝ	120
72	文化11/9/14	春水,梅颯	上巻186	道草は五勝桜	121

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
73	文化11/10/1	小野移山亭(本太郎)	上巻189	訪問は帰りかけ(其二)	122
74	文化11/10/22	江馬細香	上巻190	自慢の女弟子	123
75	文化11/12/7	浦上春琴	上巻193	笑社の催し	124
76	文化11/12/11	小野公緒	上巻194	旅芝居の座元	125
第六編 文化十二年(36歳)					
77	文化12/1/7	江馬細香	上巻199	閑談に異性の友	128
78	文化12/1/19	菅茶山	上巻201	栲亭の半身不遂	129
79	文化12/1/晦	江馬細香	上巻203	詩句の商量	130
80	文化12/2/29	中谷環翠(三介)	上巻204	景譲の訃	131
81	文化12/3/23	市河米菴?	上巻205	門人の聖堂拝見	131
82	文化12/3/	江馬細香	上巻207	韵府約編の直段	132
83	文化12/4/1	春水	上巻209	帰省の予告	133
84	文化12/4/28	片岡章範(片岡民部)	上巻211	象頭山一見	134
85	文化12/5/12	熊谷鳩居堂	上巻213	「清百家絶句」の出版(其一)	135
86	文化12/5/17	江馬細香	上巻214	書風一変	136
87	文化12/8/13	藤井機園(彦七郎),小野招月亭(泉蔵),小野移山亭(本太郎)	上巻216	浮世ばなし	137
88	文化12/8/26	小野移山亭(本太郎)	上巻220	二条高倉へ転宅	139
89	文化12/8/29	菅茶山	上巻221	京儒者の内幕	139
90	文化12/9/11	熊谷鳩居堂	上巻226	「清百家絶句」の出版(其二)	142
91	文化12/10/19	村瀬藤城	上巻227	「清百家絶句」の編纂に就て	142
92	文化12/11/7	熊谷鳩居堂(久右衛門)	上巻228	日野南洞公に招かれて	143
93	文化12/11/28	小石元瑞	上巻230	妹へ安産の護符	144
94	文化12/12/10	菅茶山	上巻231	京儒者の泥棒と心中	144
95	文化12/12/17	片山九畹(於蘭)	上巻234	「女大家帖」の行方(其一)	146
96	文化12/12/22	橋本竹下(元吉)	上巻237	牡丹のやうな玉蘊女史	147
97	文化12/ /	頼春風	上巻238	新宅の見取図と説明	148

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
第七編 文化十三年(37歳)～文化十四年(38歳)					
98	文化13/1/8	小野移山亭(本太郎)	上巻241	史誤	150
99	文化13/2/7	橋本竹下(元吉)	上巻244	明・清書画の真贋	152
100	文化13/2/15	頼杏坪	上巻249	春水の危篤を聞いて	154
101	文化13/3/7	菅茶山	上巻252	忌中の礼状	156
102	文化13/4/21	梅颯	上巻254	父の遺金は預金	157
103	文化13/5/4	頼春風	上巻257	聿庵の家督相続	158
104	文化13/5/7	田能村竹田	上巻260	春水の喪中(其一)	160
105	文化13/5/24	片山九畹	上巻262	「女大家帖」の行方(其二)	161
106	文化13/6/23	片山九畹(於蘭)	上巻265	「女大家帖」の行方(其三)	162
107	文化13/7/8	橋本竹下	上巻267	屠隆と王用賢	163
108	文化13/閏8/1	菅野真斎(土綏)	上巻270	春水の喪中(其二)	165
109	文化13/9/5	片山九畹(於蘭)	上巻272	「女大家帖」の行方(其四)	166
110	文化13/9/5	熊谷鳩居堂	上巻274	「女大家帖」の行方(其五)	167
111	文化13/10/11	江馬細香	上巻275	江馬蘭斎の古称	167
112	文化13/10/16	頼立斎(子常)	上巻277	「日本外史」の写本(其一)	168
113	文化13/12/18	伊勢屋次郎左衛門	上巻238	画賛より自賛	149
114	文化13/ /	頼立斎(子常)	上巻280	「日本外史」の写本(其二)	170
115	文化14/1/5	小島彤山	上巻282	喪中の茶話	171
116	文化14/1/17	小島彤山	上巻283	「六書通」と小硯	171
117	文化14/2/16	橋本竹下(橋本元吉)	上巻254	芸香堂を紹介	157
118	文化14/2/18	梅颯	上巻287	春水の一年祭	173
119	文化14/2/22	村瀬藤城(土錦)	上巻290	営業専一を期待	175
120	文化14/4/11	梅颯	上巻291	春水墓碑の刻文	175
121	文化14/5/23	小野移山亭(本太郎)	上巻294	煎茶の趣味	177
122	文化14/5/25	真野竹堂	上巻297	光格天皇の御譲位	178

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
123	文化14/10/24	橋本竹下(元吉)	上巻299	咄、抹茶者流	179
124	文化14/11/6	篠崎小竹(承弼)	上巻302	「通語」と「五代史」	181
125	文化14/12/24	橋本竹下(元吉)	上巻304	黄晋良は好い買物	182
126	文化14/ /	橋本竹下(橋本吉兵衛)	上巻306	兼葭堂遺愛の程君房墨	183
第八編 文政元年(39歳)					
127	文政元/3/5	橋本竹下(橋本吉兵衛),熊谷挹翠(熊谷幾右衛門),北村夢嶽(北邨純泰)	上巻309	九州遊歴の報	185
128	文政元/3/6	篠崎小竹(篠崎長左衛門)	上巻311	京都の塾は一時閉鎖	186
129	文政元/4/21	梅颯,聿庵	上巻313	明日は九州の一角へ	187
130	文政元/4/26	松永花遁(松永宗助)	上巻315	飲食よりも風呂へ	188
131	文政元/5/25	梅颯,聿庵	上巻316	長崎だより(其一)	189
132	文政元/6/7	梅颯,聿庵	上巻322	長崎だより(其二)	192
133	文政元/6/15	熊谷鳩居堂(久右衛門)	上巻324	鹿児島行に就て	193
134	文政元/7/8	梅颯,聿庵	上巻326	長崎だより其三	194
135	文政元/8/21	梅颯,聿庵	上巻330	長崎だより其四	196
136	文政元/8/28	梅颯,聿庵	上巻333	熊本だより	197
137	文政元/9/	蔵本某	上巻337	熊本にもない佐敷の酒	199
138	文政元/9/8	深水春山(深水玄門)	上巻338	旅費は潤筆	200
139	文政元/9/29	菅茶山	上巻340	鹿児島だより	201
140	文政元/9/晦	篠崎小竹(承弼)	上巻343	西游の珍談山の如し	202
141	文政元/9/晦	後藤漆谷	上巻346	掘出しの逸品	204
142	文政元/10/3	深水春山(深水玄門)	上巻348	薩摩みやげ	205
143	文政元/10/6	梅颯,聿庵	上巻351	熊本へ引返して	206
144	文政元/10/20	松永花遁(松永徳兵衛)	上巻353	盛茂燁の名幅	207
145	文政元/12/5	村井古香(村井冠五)	上巻355	王建葦の松林山水(其一)	208
146	文政元/12/24	熊谷鳩居堂	上巻359	下ノ関に還つて	210
147	文政元/12/24	月峰上人	上巻361	獲物の披露は帰京の上	211

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
第九編 文政二年(40歳)					
148	文政2/2/14	三穂子	上巻365	帰京の出立前	214
149	文政2/4/19	小石元瑞	上巻366	お祝の鯛は早速母へ	215
150	文政2/閏4/1	広江殿峰,秋水	上巻367	西游記念の地図	215
151	文政2/閏4/1	村井古香(村井冠五)	上巻372	王建章の松林山水(其二)	218
152	文政2/閏4/20	熊谷鳩居堂	上巻374	屋賃の交渉	219
153	文政2/6/8	小野移山亭(孝卿)	上巻377	食悦・酒品	220
154	文政2/6/20	亀川北翁	上巻379	雪舟碑の書丹	221
155	文政2/7/8	小石元瑞,浦上春琴,熊谷鳩居堂(熊谷久右衛門)	上巻380	気にかゝるは門人の離散	222
156	文政2/8/16	江馬細香	上巻383	此度にて最後の遠遊	223
157	文政2/8/22	菅茶山	上巻385	紛々たる冤罪	224
158	文政2/ /7	熊谷鳩居堂	上巻388	家塾再興と金子出入	226
159	文政2/9/12	江馬細香	上巻389	送別に一会	226
160	文政2/11/16	江馬細香	上巻390	江芸閣に紹介(其一)	227
161	文政2/ /	雲華上人	上巻392	前の耶馬溪図巻(其一)	228
162	文政2/12/27	江馬細香	上巻393	前の耶馬溪図巻(其二)	228
163	文政2/12/27	菅茶山	上巻395	詩評の交換	229
第十編 文政三年(41歳)					
164	文政3/1/9	篠崎小竹	上巻403	前の耶馬溪図巻(其三)	234
165	文政3/1/15	橋本竹下,亀山夢研(梵研),岡田陶然	上巻405	紫端軒を金に	235
166	文政3/2/4	岡一水	上巻407	春琴を紹介	236
167	文政3/2/15	頼杏坪,頼養堂(千蔵)	上巻408	頼立斎の教養	237
168	文政3/2/15	小石元瑞	上巻411	小林香雪の像賛	238
169	文政3/2/25	亀山夢研(亀山松太郎)	上巻413	「西遊稿」の浄録	239
170	文政3/3/7	後藤松陰(世張),江馬細香	上巻414	後藤松陰の大阪開業	240
171	文政3/3/9	梅颯,聿庵	上巻416	聿庵の新婚(其一)	241

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
172	文政3/3/22	菅茶山	上巻419	「西遊稿」の添削	242
173	文政3/3/23	小野招月亭(泉蔵),移山亭(本太郎)	上巻422	小野櫟翁の碑文	244
174	文政3/3/27	雲華上人	上巻425	前の耶馬溪図巻(其四)	245
175	文政3/3/	江馬細香	上巻427	江芸閣に紹介(其二)2通	246
176	文政3/3/29	橋本竹下(元吉)	上巻431	盛茂燐と蕭尺木	248
177	文政3/4/21	梅颺,聿庵	上巻434	聿庵の新婚(其二)	250
178	文政3/4/25	広江殿峰,秋水	上巻438	倪元璐の書と施溥の書	252
179	文政3/4/28	江馬細香	上巻442	大田錦城の詩	254
180	文政3/5/3	新宮涼庭?	上巻443	梨影の診察	254
181	文政3/6/6	汀馬細香	上巻444	文章と詩句	255
182	文政3/6/10	雲華上人	上巻446	小雲華の出現(其一)	256
183	文政3/7/7	梅颺,聿庵	上巻448	大坂の近況	257
184	文政3/7/8	江馬細香	上巻452	江馬春齡の訃	259
185	文政3/7/28	片山九畹(於蘭)	上巻453	南越の珍魚	259
186	文政3/7/29	阿部縑洲	上巻455	阿部良山の訃	260
187	文政3/7/	江馬細香	上巻456	水亭の晩涼	261
188	文政3/8/12	小野移山亭(小野伯本)	上巻458	頼み甲斐なき中国勢	262
189	文政3/9/22	亀山夢研,北村夢嶽(夢岳),橋本竹下(元吉),岡田陶然	上巻461	李白に対する王昌齡	263
190	文政3/9/23	雪華上人	上巻463	前の耶馬溪図巻其五	264
191	文政3/9/23	雲華上人	上巻466	小雲華の出現(其二)	266
192	文政3/10/16	梅颺,聿庵	上巻467	辰蔵の誕生(其一)	266
193	文政3/10/21	江馬細香	上巻470	野呂介石の画	268
194	文政3/11/3	篠崎小竹,武内確斎	上巻472	泉川の飲口	269
195	文政3/11/14	雲華上人(含公)	上巻474	「八大家文」の借覧	270
196	文政3/11/12	梅颺,聿庵	上巻476	「東遊日記」を示されて	271
197	文政3/11/14	向藤左穂門	上巻479	何事もさらけ話	272

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
198	文政3/ /	北村夢嶽	上巻484	宮原節庵の名字	275
第十一編 文政四年(42歳)					
199	文政4/2/10	橋本竹下, 亀山夢研	上巻487	辰蔵の誕生(其二)	277
200	文政4/3/7	篠崎小竹(承弼)	上巻489	後藤松陰の婚約(其一)	278
201	文政4/4/24	梅颯, 聿庵	上巻492	両替町の薔薇園(其一)	280
202	文政4/5/11	久米牀山	上巻495	両替町の薔薇園(其二)	281
203	文政4/5/16	小野移山亭	上巻496	潤筆の催促	282
204	文政4/6/13	近江屋近後廬(近江屋五郎兵衛)	上巻498	「韻府」買入の交渉	283
205	文政4/6/14	中谷環翠(三介)	上巻500	詩稿の添削	284
206	文政4/6/18	梅颯, 聿庵	上巻501	聿庵の再婚(其一)	284
207	文政4/6/18	木村力山	上巻504	書道の弟子	286
208	文政4/6/21	村瀬藤城(子錦)	上巻505	両替町の薔薇園(其三)	286
209	文政4/6/23	渡橋貞兵衛	上巻507	宮原節庵の教育	287
210	文政4/ /	江馬細香	上巻508	十声十影詩の模写	288
211	文政4/6/28	広江殿峰(広江吉右衛門)	上巻510	田中訥言に褒められて	289
212	文政4/6/29	梅颯, 聿庵	上巻513	「春水遺稿」の整理(其一)	290
213	文政4/6/	内藤静脩	上巻516	山鼻よりも糺森	292
214	文政4/7/6	篠崎小竹(承弼), 武内確斎(子玉)	上巻517	両替町の薔薇園(其四)	292
215	文政4/6/	小野招月亭	上巻519	両替町の薔薇園(其五)	293
216	文政4/8/3,5	日野南洞	上巻521	詩句の雅俗精粗	294
217	文政4/8/3	梁川星巖	上巻224	南洞公へ「船山集」	146
218	文政4/8/9	後藤松陰(世張)	上巻525	暴風雨に庭園無事	296
219	文政4/8/9	梅颯, 聿庵	上巻527	旧藩に対する身分	297
220	文政4/8/24	橋本竹下(元吉)	上巻533	憚正叔の画幅	300
221	文政4/9/5	橋本竹下	上巻535	何龍の山水画	301
222	文政4/ /	市河米庵	上巻537	自作を「寛斎遺稿」に附刻	302

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
223	文政4/9/12	市河米庵	上巻538	「寛斎遺稿」と「春水遺稿」(其一)	303
224	文政4/9/17	菅茶山	上巻540	「寛斎遺稿」と「春水遺稿」(其二)	304
225	文政4/9/18	菅茶山	上巻544	京師文壇の寂寞	306
226	文政4/9/20	小石元瑞	上巻546	秋田産の古米	307
227	文政4/9/26	江馬細香	上巻547	浪華と湖南へ	307
228	文政4/10/1	藤井機園	上巻549	五瓢庵の大瓢(其一)	308
229	文政4/10/10	菅茶山	上巻551	奇男子橋本竹下	309
230	文政4/10/11	小野招月亭(泉蔵),移山亭(本太郎)	上巻555	五瓢庵の大瓢(其二)	311
231	文政4/10/24	梅颯,聿庵	上巻557	「春水遺稿」の整理(其二)	312
232	文政4/11/16	甲斐士幹	上巻561	有力なる一門客	314
233	文政4/11/21	菅茶山	上巻563	「室町志」の資料	315
234	文政4/11/24	小野招月亭(泉蔵),移山亭(本太郎)	上巻566	五瓢庵の大瓢其三	317
235	文政4/ /6	内藤静脩	上巻569	春琴を誘うて	318
第十二編 文政五年(43歳)					
236	文政5/1/3	梅颯,聿庵	上巻571	聿庵の再婚(其二)	320
237	文政5/1/7	菅茶山	上巻573	「久太郎」と「徳太郎」	321
238	文政5/1/15	小野招月亭,移山亭,藤井機園(彦七郎)	上巻577	五瓢庵の大瓢其四	323
239	文政5/閏1/5	務仲甚右衛門	上巻579	「久太郎」は音読	324
240	文政5/閏1/21	小野招月亭(泉蔵),移山亭(本太郎)	上巻580	「拙斎遺稿」の整理	325
241	文政5/2/7	木材力山	上巻582	酒伝授(其一)	326
242	文政5/2/8	木村力山	上巻586	酒伝授(其二)	328
243	文政5/2/25	梅颯	上巻587	「春水遺稿」の整理(其三)	328
244	文政5/2/26	原老柳	上巻591	水西荘経営の出資者(其一)	330
245	文政5/4/6	頼春風	上巻593	古稀の寿詞	331
246	文政5/7/1	甲斐士幹	上巻602	俊才野本白嶽	336
247	文政5/6/10	篠崎小竹,武内確斎	上巻605	文晁筆・楽翁賛の杜鵑図	337

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
248	文政5/6/23	篠崎小竹,武内確斎,後藤松陰	上巻608	金聖歎の著書	339
249	文政5/7/22	梅颯,聿庵	上巻610	聿庵の再婚(其三)	340
250	文政5/9/6	梅颯,聿庵	上巻613	聿庵の再婚(其四)	341
251	文政5/9/1	岡田半江	上巻615	隠退に賛成	342
252	文政5/10/14	頼春風,杏坪	上巻617	「春水遺稿」の整理(其四)	343
253	文政5/10/15	菅茶山	上巻620	水西荘(其一)	345
254	文政5/10/20	伊勢屋治郎左衛門	上巻623	水西荘経営の出資者(其二)	346
255	文政5/11/	?	上巻625	水西荘(其二)	347
256	文政5/12/3	梅颯,聿庵	上巻627	一对の酒杯	348
257	文政5/12/27	山口睦斎(吉十郎)	上巻628	水西荘(其三)	349
第十三編 文政六年(44歳)					
258	文政6/1/3	頼春風	上巻631	水西荘(其五)	351
259	文政6/1/24	菅茶山	上巻633	新宅見舞の金一封	352
260	文政6/1/30	宮原節菴	上巻636	乳をはなして上京	354
261	文政6/4/2	梅颯,聿庵	上巻637	新宅の内祝	354
262	文政6/4/4	頼春風	上巻640	「春水遺稿」の忌諱(其一)	356
263	文政6/ /	頼聿菴	上巻644	「春水遺稿」の忌諱(其二)	358
264	文政6/5/15	菅茶山	上巻646	水西荘(其六)	359
265	文政6/7/2	大倉笠山	上巻651	書画会に百谷の飛入	361
266	文政6/7/3	熊谷鳩居堂	上巻652	和絹に和墨	362
267	文政6/7/10	大倉笠山	上巻655	竹田を誘うて	363
268	文政6/8/23	梅颯,聿庵	上巻656	「春水遺稿」の整理(其五)	364
269	文政6/9/4	梅颯,聿庵	上巻659	後藤松陰の婚約(其二)	365
270	文政6/9/5	田能村竹田	上巻662	出来合の作品拝借	367
271	文政6/9/8	田能村竹田	上巻663	沈石田の山水	367
272	文政6/9/23	梅颯,聿庵	上巻664	二度目の京上り	368

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
273	文政6/9/27	小野桐陰	上巻667	「桐陰茶寮記」	369
274	文政6/10/5	小野桐陰	上巻668	竹田と合作の陸羽像賛(其一)	370
275	文政6/10/10	小野桐陰	上巻670	竹田と合作の陸羽像賛(其二)	371
276	文政6/10/	坂上桐陰	上巻671	桐陰と桐陰	371
277	文政6/10/15	内藤静脩	上巻672	同伴には竹田と笠山	372
278	文政6/11/7	大倉笠山	上巻673	支峰の誕生(其一)	372
279	文政6/11/10	熊谷鳩居堂	上巻675	支峰の誕生(其二)	373
280	文政6/11/15	篠崎小竹,武内確斎	上巻676	後藤松陰の婚約(其三)	374
281	文政6/12/3	雲華上人	上巻678	産後の梨影と雀味噌	375
282	文政6/12/26	熊谷鳩居堂	上巻680	施漣の画幅あてに貯金引出し(其一)	376
283	文政6/12/27	熊谷鳩居堂	上巻682	施漣の画幅あてに貯金引出し(其二)	377
第十四編 文政七年(45歳)					
284	文政7/1/6	橋本竹下(橋本吉兵衛)	上巻685	施漣画幅の争奪(其一)	379
285	文政7/1/22	村瀬藤城(子錦),江馬細香	上巻687	竹田の疎懶	380
286	文政7/1/25	橋本竹下(橋本元吉)	上巻689	施漣画幅の争奪(其二)	381
287	文政7/1/25	村井古香	上巻693	王建章の松林山水(其三)	383
288	文政7/2/3	松田九霞(渙卿)	上巻696	伊予に一遊の予定	385
289	文政7/2/18	熊谷鳩居堂	上巻699	春水忌に麦飯とろゝ	386
290	文政7/2/18	熊谷鳩居堂(香具屋久右衛門)	上巻701	乳母の雇入	387
291	文政7/2/24	浦上春琴	上巻702	大島精一郎に添書	388
292	文政7/2/25	渡橋貞兵衛	上巻703	母の上京と節庵	388
293	文政7/2/26	村瀬藤城(子錦),江馬細香	上巻705	「古文典刑」の浄写	389
294	文政7/3/19	小田井百谷	上巻707	百谷の留別	390
295	文政7/4/14	大倉笠山	上巻709	近郊逍遙	391
296	文政7/4/28	木村力山(郁右衛門)	上巻710	千字文の手本	392
297	文政7/6/9	熊谷鳩居堂	上巻712	植木屋の家を別荘に	393

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
298	文政7/8/5	内藤静脩	上巻714	糺森へ誘はれて	394
299	文政7/閏8/25	橋本竹下(元吉)	上巻715	沈・陳双幅は贗物	394
300	文政7/9/25	雲華上人	上巻717	丹波屋の別杯	395
301	文政7/10/13	小原梅坡(小原大之助)	上巻718	老母の宿	396
302	文政7/10/13	真野竹堂	上巻720	岡山の宿へ酒を贈られて	397
303	文政7/12/9	橋本竹下(吉兵衛),宮原節庵(謙蔵)	上巻721	帰京の途上より	397
304	文政7/12/15	生長小太郎	上巻722	黙つて貰うた菓子	398
305	文政7/12/16	生長小太郎	上巻724	堂号の選択	399
306	文政7/12/22	小寺樞園(小寺帯刀),生長小十郎	上巻726	笠岡代官の碑	400
307	文政7/ /	江馬細香	上巻728	墨に膠をまぜては俗	401
308	文政7/ /	木村力山(木村郁右衛門)	上巻730	西条の鶏卵と乾うどん	402
309	文政7/ /	内藤静脩	上巻732	十声詩其他の説明	403
第十五編 文政八年(46歳)					
310	文政8/1/8	小野招月亭,移山亭	上巻735	長尾の鯛を尼崎迄	405
311	文政8/1/15	都築貫卿	上巻738	年末歳首の作	407
312	文政8/1/15	渡橋貞兵衛・宮原節庵(謙蔵)	上巻739	牧に負けるな	407
313	文政8/1/22	梅颯,聿庵	上巻744	上京のすゝめ	410
314	文政8/2/14	梅颯,聿庵	上巻746	辰蔵の袴着祝	411
315	文政8/3/23	山口睦斎(山口吉十郎)	上巻749	瓢を携へて文を論ぜん	412
316	文政8/3/24	頼春風	上巻751	痘児の投棄	413
317	文政8/3/27	雲華上人	上巻752	その来書に手答	414
318	文政8/4/9	梅颯,聿庵	上巻754	支蜂は全快	415
319	文政8/4/9	市河米庵	上巻755	黄道周は手に入らぬ	415
320	文政8/4/29	熊谷鳩居堂	上巻758	紀州みやげの代りに豆飯	417
321	文政8/5/1	梅颯,聿庵	上巻759	和歌浦の罵倒	417
322	文政8/6/3	梅颯,聿庵	上巻764	三樹の誕生	420

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
323	文政8/6/29	宮原節庵(土淵)	上巻768	病父へ見舞(其一)	422
324	文政8/6/29	梅颯, 聿庵	上巻769	節酒の誓	422
325	文政8/6/29	岩崎鷗雨	上巻773	大坂の盛會を羨みて	424
326	文政8/7/6	?	上巻774	北隣の風流先生	425
327	文政8/7/19	大倉笠山	上巻776	聖護院の萩	426
328	文政8/7/21	宮原節庵(宮原謙蔵)	上巻777	病父の見舞(其二)	426
329	文政8/7/23	梅颯, 聿庵	上巻778	篠崎家にて読書三昧	427
330	文政8/8/12	篠崎小竹	上巻781	下坂中の四美	428
331	文政8/8/21	宮原節庵(土淵)	上巻783	病父の訃音	429
332	文政8/8/28	雲華上人	上巻784	粟津裕斎の来訪	430
333	文政8/9/27	牧百峰(善助), 頼立斎(常太), 斎藤石城(良策), 村瀬太乙(太一)	上巻786	留守宅より春風の訃	431
334	文政8/11/1	真野竹堂	上巻789	旅中、酒の無心	432
335	文政8/11/4	梅颯, 聿庵	上巻790	三木八と又二	433
336	文政8/11/5	河合寸翁(河合子誠)	上巻795	置忘れの茶山手製の杖	435
337	文政8/11/5	原老柳(左一郎)	上巻797	潤筆残りの酒一挺	436
338	文政8/11/7	篠崎小竹	上巻799	「尚書後」と「疏証」	437
339	文政8/11/8	原老柳(原左一郎)	上巻802	酒故なればこそ	439
340	文政8/11/16	梅颯, 聿庵	上巻804	御長寿の計	440
341	文政8/12/21	神戸某	上巻807	蘭嶋・大雅堂一対の後赤壁	441
第十六編 文政九年(46歳)					
342	文政9/1/8	梅颯, 聿庵	下巻1	孫秀蔵の誕生	481
343	文政9/2/29	菅茶山	下巻3	淡墨まんじう形の字	482
344	文政9/3/2	村瀬石斎(季徳)	下巻6	「続八大家文読本」の序文	484
345	文政9/3/21	梅颯, 聿庵	下巻8	星巖と米庵の入京	485
246	文政9/3/尽	菅茶山	下巻12	市河米庵の噂	487
347	文政9/4/9	福井榕亭(福井丹波守)	下巻14	米庵の歓迎	488

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
348	文政9/4/22	原老柳(左一郎)	下巻15	美酒は老母へも	488
349	文政9/5/14	小野桐陰	下巻17	水西荘の崖崩れ	489
350	文政9/5/29	原老柳	下巻18	酒は伊丹近衛家役所の差札	490
351	文政9/7/30	梅颯, 頼杏坪	下巻20	妹の死去	491
352	文政9/8/8	野田笛浦(野田希一)	下巻21	「海紅園小稿」の批評	491
353	文政9/9/13	頼小園(尚平)	下巻23	春風形見の衣類	492
354	文政9/9/24	菅茶山	下巻25	再度の吉野行に就て	493
355	文政9/10/18	菅茶山	下巻27	将軍と太政大臣(其一)	494
356	文政9/10/18	近藤抑斎	下巻29	将軍と太政大臣(其二)	495
357	文政9/10/18	村瀬石斎(不二石斎)	下巻31	「外史」訂正の材料	496
358	文政9/10/18	小原梅坡	下巻34	ギヤマンの酒杯	498
359	文政9/10/20	原老柳	下巻36	大和游仙詞の作意(其一)	499
360	文政9/11/3	熊谷鳩居堂(熊谷久右衛門)	下巻39	借用証文	500
361	文政9/11/4	梅颯, 聿庵	下巻40	杏坪の老健	501
362	文政9/11/25	篠崎小竹	下巻42	「外史」の論賛と「読史余論」	502
363	文政9/11/	雲華上人	下巻45	粟津裕斎の厄難	503
364	文政9/12/3	木村力山(郁右衛門)	下巻46	大和游仙詞の作意(其二)	504
365	文政9/12/27	市河米庵	下巻47	「日本外史」を託して	504
366	文政9/12/27	馬場元華(三郎右衛門)	下巻49	中村梅玉、二度の舞台	505
第十七編 文政十年(48歳)					
367	文政10/1/7	平塚瓢斎(平塚善十郎)	下巻53	河越後陣は夜軍	508
368	文政10/1/14	梅颯, 聿庵	下巻55	酒は三十九歳から	509
369	文政10/1/14	篠崎小竹夫妻	下巻57	武内確斎の死跡	510
370	文政10/1/28	宮原節庵	下巻60	老母の出迎	512
371	文政10/2/10	頼杏坪, 采真(佐一郎)	下巻62	旅費は当方にて	513
372	文政10/2/16	村瀬石斎(季徳)	下巻65	「外史」と林述斎	514

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
373	文政10/2/22	内藤静脩(静脩)	下巻67	細香同伴にて推参	515
374	文政10/2/25	江馬細香	下巻68	知恩院の花見	516
375	文政10/3/7	田辺玄々斎(田辺飛驒)	下巻70	母はおなじみ	517
376	文政10/3/11	篠崎小竹	下巻71	吉野行の誘引(其一)	517
377	文政10/3/	篠崎小竹夫妻	下巻73	吉野行の誘引(其二)	518
378	文政10/4/2	内藤静脩(内藤十郎兵衛)	下巻74	香魚を母は好まず	519
379	文政10/4/3	香川景樹	下巻75	興に乗じて来れ	519
380	文政10/4/3	岩崎鷗雨	下巻77	江戸文人への添書	520
381	文政10/4/9	市河米庵	下巻79	「外史」献上は表向に	521
382	文政10/4/16	篠崎小竹	下巻82	昌黎像賛と贈介石詩	523
383	文政10/5/2	雲華上人	下巻84	清輝楼の留別宴	524
384	文政10/5/8	不破右門	下巻85	楽翁公との楔子	524
385	文政10/5/15	坂上桐陰	下巻86	母と叔父の有馬行	525
386	文政10/5/25	菅茶山	下巻90	「外史」と楽翁公	527
387	文政10/5/28	雲華上人	下巻93	二十年の精神出現	528
388	文政10/6/4	近藤抑斎	下巻94	河合寸翁との交誼	529
389	文政10/6/16	篠崎小竹,後藤松陰	下巻97	武内確斎墓碑の題額	530
390	文政10/閏6/1	大八木土信(大八木縫殿)	下巻99	桂川の香魚	531
391	文政10/閏6/5	小倉宗右衛門	下巻100	毛利公夫人下命の題匣(其一)	532
392	文政10/閏6/6	小倉宗右衛門	下巻101	毛利公夫人下命の題匣(其二)	532
393	文政10/閏6/16	介川緑堂(介川東馬)	下巻102	小竹と連名にて	533
394	文政10/閏6/16	大窪詩仏へ?	下巻104	大坂の舟遊	534
395	文政10/閏6/20	篠崎小竹	下巻105	綱島移転は見合せ	534
396	文政10/閏6/24	梁川星巖	下巻108	何処までもお身分	536
397	文政10/閏6/29	田内月堂(田内主税)	下巻109	楽翁公と「外史」	536
398	文政10/閏6/29	日野南洞	下巻112	「十旬花月帖」	538

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
399	文政10/7/9	村瀬藤城(子錦)	下巻115	村瀬太乙の教訓	539
400	文政10/7/11	坂上桐陰	下巻118	介石画訣帖の跋	541
401	文政10/7/	坂上桐陰	下巻120	詩仏に跋を頼むには	542
402	文政10/7/	坂上桐陰	下巻121	詩仏に黄金・頼には剣菱	542
403	文政10/7/16	独柳園	下巻122	徂徠の画幅は贋作	543
404	文政10/7/14	坂上桐陰	下巻123	剣菱と鶺鴒	543
405	文政10/8/11	宮原節庵(謙蔵)	下巻126	茶山の大患(其一)	545
406	文政10/8/12	佐竹勘兵衛	下巻127	茶山の大患(其二)	545
407	文政10/8/13	梁川星巖	下巻130	「梁星岳西征詩」の序	547
408	文政10/10/2	梅颯,頼杏坪,聿庵,采真	下巻131	藩侯へ「外史」献納の願書	547
409	文政10/10/7	梁川星巖	下巻134	糺森の観楓	549
410	文政10/10/21	篠崎小竹,後藤松陰,広瀬筑梁	下巻134	元遺山の野史亭	549
411	文政10/ /	篠崎小竹	下巻137	謝道承の画幅	550
412	文政10/11/15	市河米庵	下巻139	「続米庵墨談」の序文	551
413	文政10/12/2	平塚飄斎	下巻140	酒は菊水	552
414	文政10/12/23	巻菱湖,梁川星巖	下巻141	来るか、往かうか	552
415	文政10/12/7	頼聿庵(餘一)	下巻142	「春水遺稿」の跋	553
第十八編 文政十一年(49歳)					
416	文政11/1/11	福井棣園	下巻147	課題は桓武陵	556
417	文政11/1/14	梁川星巖	下巻149	詩句の商量	557
418	文政11/1/22	坂上桐陰	下巻153	詠史十八首の試筆	559
419	文政11/1/25	篠崎小竹(承弼)	下巻155	薬よりも飲食を節せよ	560
420	文政11/1/30	頼杏坪,聿庵	下巻156	「春水遺稿」開版の基金	561
421	文政11/2/27	梁川星巖	下巻160	細雨、文を論ぜん	563
422	文政11/3/4	木村安長	下巻161	南洞公への謝礼催促	563
423	文政11/3/18	篠崎小竹,後藤松陰	下巻163	曾祖母の忌日	564

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
424	文政11/5/14	牧百峯(善助)	下巻164	古川古松軒の伝	565
425	文政11/7/3	牧百峯(信侯)	下巻166	星巖と共に批評	566
426	文政11/8/17	篠崎小竹	下巻167	東寺の観古(其一)	566
427	文政11/8/18	磯崎小竹,小石元瑞	下巻170	東寺の観古(其二)	568
428	文政11/8/20	篠崎小竹(篠崎長左衛門)	下巻171	昼船か夜船か	568
429	文政11/8/23	梁川星巖	下巻173	詩をなぜ見せぬ	569
430	文政11/8/29	篠崎小竹(承弼)	下巻174	質物の廿二史割記	570
431	文政11/9/10	梁川星巖	下巻177	尤展成の外国竹枝	571
432	文政11/10/	後藤松陰(世張)	下巻178	風邪の詩興	572
433	文政11/10/16	小野移山亭(本太郎)	下巻181	新渡の硯は銀一枚	573
434	文政11/10/21	梅颯,聿庵	下巻183	薦包みの注意	574
435	文政11/11/12	橋本竹下(元吉)	下巻184	後の耶馬溪図巻	575
436	文政11/12/10	牧百峯(頼斎)	下巻186	香川春村宅の詩会	576
437	文政11/12/19	橋本竹下(元吉)	下巻188	「日本楽府」(其一)	577
438	文政11/12/22	江馬細香	下巻189	「日本楽府」(其二)	577
439	文政11/12/	篠崎小竹(篠崎長左衛門)	下巻190	「日本楽府」(其三)	578
440	文政11/ /	坂上桐陰(長古堂)	下巻193	鳳蘭を贈られて	579
第十九編 文政十二年(50歳)					
441	文政12/1/9	大倉笠山	下巻195	「大日本史」の借覧	581
442	文政12/1/13	橋本竹下(元吉)	下巻197	煎茶の秘訣	582
443	文政12/1/16	梁川星巖	下巻199	添川拙堂の送別	583
444	文政12/1/	牧百峯	下巻200	面会を謝絶せよ	584
445	文政12/2/3	雲華上人	下巻201	長喜庵行の三快	584
446	文政12/ /	坂上桐陰	下巻204	雲華は下戸	586
447	文政12/ /	坂上桐陰	下巻205	愛蓮説と扁額の書	586
448	文政12/2/22	篠崎小竹(篠崎長左衛門)	下巻206	陸羽像の鑑定	587

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
449	文政12/2/27	梅颯	下巻208	出先の御都合は	588
450	文政12/2/28	岡昌平	下巻210	盆栽を京へ	589
451	文政12/2/晦	渡橋貞兵衛	下巻211	旅中の介添	589
452	文政12/3/13	渡橋貞兵衛(大紺屋貞兵衛)	下巻213	船賃の立替	590
453	天保元/3/19	頼杏坪	下巻216	「折焼柴」流の自伝	592
454	文政12/3/21	福原某	下巻219	広島みやげの献上	593
455	文政12/3/25	原老柳(原左一郎)	下巻220	伊勢行の授兵	594
456	文政12/ /6	小石元瑞	下巻222	縁談の橋渡し(其一)	595
457	文政12/4/13	岩崎鷗雨	下巻223	老母を江州へ	595
458	文政12/4/19	平塚飄斎	下巻225	「日本楽府」(其四)	596
459	文政12/4/19	佐竹勘兵衛	下巻227	毛利公夫人の帰藩	597
460	文政12/5/5	小石元瑞	下巻229	縁談の橋渡し(其二)	598
461	文政12/5/19	大八木土信	下巻233	欽定四経本	600
462	文政12/6/1	大八木土信	下巻235	老母を遊伴に	601
463	文政12/6/14	岩崎鷗雨	下巻237	介石画卷の豪奪は御免	602
464	文政12/6/23	内藤静脩	下巻239	有栖川宮家へ酒の御無心	603
465	文政12/6/晦	頼杏坪	下巻240	「春草堂詩鈔」と「原古編」	604
466	文政12/7/6	岩崎鷗雨(岩崎春翠)	下巻242	東山大文字の夜	605
467	文政12/7/7	岩崎鷗雨	下巻224	酒が着いてから	596
468	文政12/7/23	後藤松陰(後藤俊蔵)	下巻245	「山陽詩鈔」の出版に就いて	606
469	文政12/8/5	岩崎鷗雨	下巻247	観漁は妙	607
470	文政12/8/8	坂上桐陰	下巻248	米庵の山水と双幅	608
471	文政12/8/25	浦上春琴(春栞)	下巻250	中国帰りを迎へて	609
472	文政12/9/15	雲華上人	下巻251	母と俱に朱雀の宴会へ	609
473	文政12/10/3	坂上桐陰	下巻252	祇園のおらいも連れて	610
474	文政12/10/	坂上桐陰	下巻255	箕面行の案内	611

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
475	文政12/10/5	篠崎小竹	下巻256	「日本楽府」(其五)	612
476	文政12/10/14	川北温山(川北喜左衛門)	下巻259	来訪の日取	613
477	文政12/10/19	岩崎鷗雨	下巻261	書肆の盗写したる「外史」	614
478	文政12/10/21	原老柳(原左一郎)	下巻262	箕面の一行	615
479	文政12/12/4	梅颯, 聿庵	下巻264	春水遺愛の脇差と槍	616
第二十編 天保元年(51歳)					
480	天保元/3/13	大窪詩仏	下巻269	災難つゞきに同情	619
481	天保元/3/11	坂上桐陰	下巻272	後の耶馬溪図巻(其一)	621
482	天保元/3/17	坂上桐陰	下巻273	後の耶馬溪図巻(其二)	621
484	天保元/3/24	梅颯, 聿庵	下巻274	針仕事は御無用	622
485	天保元/3/26	香川景樹(香川長門介)	下巻277	町場後扇が「上江口記初解序」の加註に対して	623
486	天保元/閏3/1	大八木土信	下巻291	御夫婦とも只今より	630
487	天保元/閏3/9	大八木土信	下巻292	細香女史の餞飲	631
488	天保元/閏3/14	小野田簡斎(小野田小一郎)	下巻293	肴は川魚・酒は持参	631
489	天保元/閏3/15	長谷川某	下巻294	江州にて伊勢の肴	632
490	天保元/4/10	近藤抑斎(近藤顧一郎)	下巻296	姫路藩と「外史」	633
491	天保元/5/7	牧百峯	下巻299	「日本楽府」の序文に就て	634
492	天保元/6/2	雲華上人	下巻300	帰省に一面別	635
493	天保元/6/16	岡初平	下巻302	人足と駕籠	636
494	天保元/6/24	頼采真(佐一郎)	下巻303	売本にはせぬ「春水遺稿」	636
495	天保元/6/26	橋本竹下, 亀山夢研, 高橋松之助	下巻306	焼出されの林谷山人	638
496	天保元/8/7	梅颯, 聿庵	下巻308	立斎へ「外史」の写料	639
497	天保元/8/9	渡橋貞兵衛	下巻310	地震史の一考証	640
498	天保元/8/11	梅颯, 聿庵	下巻313	地震の泣寝入	641
499	天保元/8/	江馬細香	下巻316	地震の狂詩	643
500	天保元/8/12	原老柳	下巻317	泉川の代りに七星	643

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
501	天保元/8/18	坂上桐陰	下巻319	帰京の喜び五つ	644
502	天保元/8/25	篠崎小竹	下巻321	鯰の鉄砲あへ	645
503	天保元/8/27	香川春村	下巻323	岡崎ちがひ	646
504	天保元/9/8	藤村澹斎(今是)	下巻325	印材・珊瑚屑を贈られて	647
505	天保元/9/24	森山団右衛門	下巻326	風邪にて臥床	648
506	天保元/10/9	坂上桐陰	下巻327	水野媚川と観楓	648
507	天保元/10/11	服部竹塙(服部勇助)	下巻329	八大家文評本の取戻し	649
508	天保元/11/3	岡田半江	下巻331	陽子の誕生	650
509	天保元/11/29	月峰上人?	下巻332	杜詩と預金	651
510	天保元/12/6	久米牀山(久米賈)	下巻334	旧藩侯の心喪	652
511	天保元/12/16	坂上桐陰	下巻335	預金証書の交換	652
512	天保元/12/21	江馬細香	下巻237	湘夢詩集の開版	603
513	天保元/12/22	梁川星巖(公図),紅蘭夫妻	下巻339	彦根藩と「外史」	654
514	天保元/ /	梁川星巖	下巻242	佐賀侯へ諷詩	606
第廿一編 天保二年(52歳)					
515	天保2/1/18	篠崎小竹	下巻345	梅花に倪元璐(其一)	658
516	天保2/1/18	坂上桐陰(勘三郎)	下巻346	梅花に倪元璐(其二)	659
517	天保2/1/	篠崎小竹	下巻348	梅花に倪元璐(其三)	660
518	天保2/1/22	坂上桐陰	下巻349	月瀬観梅(其一)	660
519	天保2/1/25	服部竹塙(服部右助)	下巻351	月瀬観梅(其二)	661
520	天保2/2/2	坂上桐陰	下巻353	十年振に楷書の手本	662
521	天保2/2/	雲華上人	下巻355	月瀬観梅(其三)	663
522	天保2/2/15	藤井雪堂	下巻359	梅の和歌二首	665
523	天保2/2/16	藤井雪堂(梅竹)	下巻361	梅のお礼に餅	666
524	天保2/2/29	田能村竹田(君彝)	下巻362	月瀬観梅(其四)	667
525	天保2/3/16	牧百峯	下巻364	石菖蒲借用	668

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
526	天保2/4/2	藤村澹斎(藤井音九郎)	下巻366	門人を召連れて雅会へ(其一)	669
527	天保2/4/4	宮原節庵(宮原謙蔵)	下巻367	門人を召連れて雅会へ(其二)	669
528	天保2/4/7	日野南洞	下巻369	林谷山人の吹聴	670
529	天保2/4/19	大八木土信	下巻371	脇差のつくろひ	671
530	天保2/5/10	梅颯	下巻372	聿庵の江戸詰と達堂の元服	672
531	天保2/6/26	村瀬藤城(子錦),秋水(世猷)	下巻375	南宗画論	673
532	天保2/6/29	梅颯	下巻378	ことしは健康	675
533	天保2/7/23	雲華上人	下巻381	緋緘に黒岩	676
534	天保2/8/9	梅颯	下巻389	四度の東遊日記	680
535	天保2/8/15	田能村竹田(君彝)	下巻392	「亦復一楽帖」(其一)	682
536	天保2/8/26	坂上桐陰	下巻395	利息の受取(一)	683
537	天保2/8/26	蓑内某	下巻397	利息の受取(二)	684
538	天保2/9/2	篠崎小竹,後藤松陰	下巻398	枳穀邸の「渉成園記」	685
539	天保2/9/11	篠崎小竹,高田樗堂等	下巻401	駕に樽・雨掛には瓢	686
540	天保2/9/15	頼聿庵(餘一)	下巻403	病を押して帰省	687
541	天保2/9/15	菊池五山,柴野碧海	下巻405	聿庵を紹介	688
542	天保2/9/26	梅颯,聿庵	下巻408	尾藤梅月夫人の贈物	690
543	天保2/10/9	小野桐陰,宮崎木雞	下巻410	東坡は下戸	691
544	天保2/10/9	小野桐陰	下巻412	上方の便り聞きたし	692
545	天保2/10/10	野坂梅園(棚守将監)	下巻413	宮島行(其一)	692
546	天保2/10/12	小野桐陰	下巻414	本川の舟遊(其一)	693
547	天保2/10/12	田能村竹田等	下巻415	白石静斎を紹介	693
548	天保2/10/13	小野桐陰	下巻418	本川の舟遊(其三)	695
549	天保2/10/14	小野桐陰	下巻419	本川の舟遊(其四)	695
550	天保2/10/14	宮崎木雞	下巻420	宮島行(其二)	696
551	天保2/10/21	小野桐陰	下巻421	茶会に招かれて	696

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
552	天保2/10/22	野坂梅園(子幹)	下巻422	宮島行(其三)	697
553	天保2/10/23	頼聿庵	下巻425	紋附は紬羽織一つ	698
554	天保2/10/23	小野桐陰	下巻426	老母も賞味	699
555	天保2/10/28	小野桐陰	下巻427	後の舟遊(其一)	699
556	天保2/10/29	宮崎木雞	下巻429	後の舟遊(其二)	700
557	天保2/11/3	文次郎	下巻430	達堂に置みやげの印	701
558	天保2/11/16	関立輔	下巻423	餞別の羊羹	697
559	天保2/12/6	梅颯	下巻433	姫路侯の御料理よりも	702
560	天保2/12/6	大倉笠山	下巻437	広島土産のびん附	704
561	天保2/12/8	篠崎小竹(承弼)	下巻438	「亦復一楽帖」(其二)	705
562	天保2/12/15	小野招月亭(泉蔵),移山亭	下巻440	三寸の舌頭、十五万石を動かす	706
563	天保2/12/25	江馬細香	下巻441	笑止千万、御老母の訃	706
第廿二編 天保三年(53歳)					
564	天保3/1/	近藤抑斎へ?	下巻443	除夜と元日の詩	708
565	天保3/1/	頼聿庵	下巻444	奥詰次席昇進の祝	709
566	天保3/1/9	小野田小一郎(舜卿)	下巻449	江戸行の心づもり	711
567	天保3/1/10	梁川星巖(公図)	下巻451	紅蘭女史の病氣	712
568	天保3/1/17	小石元瑞	下巻454	頼立斎の縁談	714
569	天保3/2/6	梅颯	下巻454	聿庵の昇進に就て	714
570	天保3/2/19	原老柳	下巻456	酒量を減じて長生	715
571	天保3/2/28	原老柳	下巻457	酒代の「秋声賦」	715
572	天保3/3/25	頼聿庵(餘一)	下巻459	江戸行は断念	716
573	天保3/4/2	福井棣園	下巻462	嵐山にて穀堂と同醉	718
574	天保3/5/8	岩崎鷗雨(元熙)	下巻464	彦根行に一宿	719
575	天保3/5/	小野田小一郎(簡斎)	下巻465	彦根より帰京(其一)	719
576	天保3/5/24	梁川星巖	下巻468	彦根より帰京(其二)	721

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
577	天保3/5/24	岩崎鷗雨(滋蕙)	下巻471	「南疆繹史」の又貸し	722
578	天保3/6/2	中川漁村(禄郎)	下巻463	常食は麦飯	718
579	天保3/6/11	梁川星巖	下巻474	泥研の銘	724
580	天保3/6/24	熊谷鳩居堂	下巻477	「書後」・「題跋」の整理	725
581	天保3/6/	梅颯	下巻479	三樹、鴨川の裸渡り	726
582	天保3/ /22	熊谷鳩居堂	下巻481	預金証文の書替	727
583	天保3/7/2	岩崎鷗雨(元熙)	下巻482	病牀より病牀へ	728
584	天保3/7/6	門田朴斎(堯佐),北条悔堂(進之)	下巻483	北条霞亭の碑文	728
585	天保3/7/7	中川漁村(禄郎)	下巻486	死を覚悟して「政記」の整理	730
586	天保3/7/13	岩崎鷗雨(喜助)	下巻488	湖東送りの手紙	731
587	天保3/7/23	岩崎鷗雨(元熙)	下巻489	病中五十日振りの詩作	731
588	天保3/7/24	坂上桐陰	下巻491	大患を戯れに咳血歌	732
589	天保3/7/24	小石元瑞	下巻492	治療次第で癒るなら	733
590	天保3/7/晦	菅東嶠	下巻495	肺血症の覚悟	734
591	天保3/8/14	小野招月亭(泉蔵),移山亭(本太郎),小野寿太郎	下巻497	蘭方より漢方へ	735
592	天保3/8/24	頼聿庵	下巻500	藩医の診察は難有迷惑	737
593	天保3/9/11	篠崎小竹,後藤松陰	下巻503	生前に見たき「山陽詩鈔」	738
594	天保3/9/12	岸琴泉(岸長太郎)	下巻506	醇酒過飲の報	740
595	天保3/9/15	小石元瑞	下巻508	鯉汁と山午莠	741
596	天保3/9/16	小石元瑞	下巻509	形見の高机	741
別集 第一 有栖川家・長州毛利家宛					
別集1	/10/6	小倉宗左衛門	下巻514	姫宮の御手本(其一)	745
別集2	/12/3	小倉宗左衛門	下巻515	姫宮の御手本(其二)	745
別集3	/6/25	内藤静脩	下巻516	織仁親王の御眷顧	746
別集4	/1/20	内藤十郎兵衛	下巻517	榻と几(其一)	746
別集5	/1/20	内藤静脩	下巻519	榻と几(其二)	747

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集6	/10/22	小倉宗左衛門	下巻520	御肩癖の按摩	748
別集7	/2/9	佐竹勘兵衛	下巻521	御命の箱書	748
別集8	/ /17	内藤静脩	下巻522	小文筆と唐筆	749
別集9	/1/17	小倉宗左衛門	下巻523	墨を献上	749
別集10	/11/23	小倉宗左衛門	下巻524	御硯と墨汁	750
別集11	/7/14	佐竹勘兵衛	下巻526	銅版の江戸名所絵	751
別集12	/12/18	内藤静脩	下巻527	画虎の賛(其一)	751
別集13	/12/23	内藤静脩	下巻528	画虎の賛(其二)	752
別集14	/12/25	佐竹勘兵衛	下巻529	歳暮御祝儀と御謝礼	752
別集15	/12/14	佐竹勘兵衛	下巻530	病気見舞の御礼	753
別集16	/1/2	内藤静脩	下巻531	手飼の鴨を御池へ	753
別集17	/12/13	福原三郎左衛門	下巻532	おし鳥一羽	754
別集18	/11/4	佐竹勘兵衛	下巻533	鶉と菊一酒	754
別集19	/4/8	佐竹勘兵衛	下巻533	江州鮒の献上	754
別集20	/6/8	熊野	下巻535	落花の柘榴	755
別集21	/11/1	小倉宗左衛門	下巻536	多武峯の自然薯嶺	756
別集22	/10/25	小倉宗左衛門	下巻537	柚みそ・蓼酢・野菜の衣揚	756
別集23	/9/26	熊野	下巻538	御所柿と八王子柿	757
別集24	/11/25	内藤静脩	下巻540	不快にて絶肉	758
別集25	/12/晦	内藤静脩	下巻540	歳暮往来	758
別集26	/5/26	小倉宗右衛門	下巻542	三樹の誕生日に鮮魚	759
別集27	/12/26	佐竹勘兵衛	下巻543	鮮魚の拝賜	759
別集28	/10/20	福原三郎左衛門	下巻543	御肴を辞退	759
別集29	/2/6	福原三郎左衛門	下巻544	うなぎの御返しに西条柿	760
別集30	/4/13	内藤静脩	下巻545	香魚に胡瓜	760
別集31	/ /1	西邨養庵	下巻546	伊勢豆腐	761

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集32	/12/	佐竹勘兵衛	下巻547	伊丹酒の品定め	761
別集33	/3/4	福原,佐竹	下巻548	此瓢に御酒を	762
別集34	/ /12	福原三郎左衛門	下巻549	きゝ酒の符会	762
別集35	/11/23	佐竹勘兵衛	下巻550	御酒の銘は何	763
別集36	/ /3	小倉宗右衛門	下巻551	御酒は新古いづれにても	763
別集37	/8/16	内藤静脩	下巻551	御酒の防腐	763
別集38	/2/5	内藤静脩	下巻553	瓢よりも壺へ	764
別集39	/12/3	福原三郎左衛門,佐竹勘兵衛	下巻554	星村と氷梅のきゝ酒	765
別集40	/9/18	佐竹勘兵衛	下巻555	拝領の御酒	765
別集41	/ /27	小倉宗右衛門	下巻556	酒の調合	766
別集42	/ /	?	下巻557	近衛家払下の古酒	766
別集43	/7/3	内藤静脩	下巻557	御酒となごや味噌	766
別集44	/5/3	小倉宗右衛門	下巻558	なごや味噌と新酒	767
別集45	/5/19	小倉宗右衛門	下巻559	生憎の名古屋みそ	767
別集 第二 熊谷鳩居堂宛					
別集46	/10/17	熊谷鳩居堂(久右衛門)	下巻561	森田士徳遺愛の硯と屠隆の巻	768
別集47	/ /23	熊谷鳩居堂	下巻563	竹洞画帳に題詩	769
別集48	/ /7	熊谷鳩居堂	下巻564	竹洞画帳の題簽	770
別集49	/5/2	熊谷鳩居堂	下巻565	清水六一の窮境	770
別集50	/ /9	熊谷鳩居堂	下巻566	御幸町押小路の貸家	771
別集51	/ /15	熊谷鳩居堂	下巻568	借地の相談	772
別集52	/1/23	熊谷鳩居堂	下巻569	借地のごたごた	772
別集53	/9/25	熊谷鳩居堂	下巻570	栗餅の客	773
別集54	/4/11	熊谷鳩居堂	下巻571	展観の趣向	773
別集55	/ /	熊谷鳩居堂	下巻572	素人の好まぬ書風	774
別集56	/9/5	熊谷鳩居堂	下巻573	墨の銘	774

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集57	/12/20	熊谷鳩居堂	下巻574	宣徳香爐に白檀香	775
別集58	/11/17	熊谷鳩居堂	下巻575	向藤左衛門へ贈る一幅	775
別集59	/10/1	熊谷鳩居堂(香具屋久右衛門)	下巻576	用筆の注文	776
別集60	/ /	熊谷鳩居堂	下巻577	江戸諸家へ詩評	776
別集61	/ /晦	熊谷鳩居堂	下巻578	「秣陵帖」一見	777
別集62	/9/29	熊谷鳩居堂(香具屋久右衛門)	下巻579	素心蘭	777
別集63	/12/21	熊谷鳩居堂	下巻580	龍紐の印材	778
別集64	/8/15	熊谷鳩居堂	下巻581	朱錠の注文	778
別集65	/ /9	熊谷鳩居堂	下巻582	画賛に亀相	779
別集66	/ /24	熊谷鳩居堂	下巻582	引札の考案	779
別集67	/11/8	熊谷鳩居堂	下巻583	屏風に揮毫	779
別集68	/9/6	熊谷鳩居堂	下巻584	泥研を貸して	780
別集69	/11/14	熊谷鳩居堂	下巻985	屠隆と婁子柔	980
別集70	/4/20	熊谷鳩居堂	下巻586	茶山より筆の直し物(其一)	781
別集71	/ /18	熊谷鳩居堂	下巻587	茶山より筆の直し物(其二)	781
別集72	/ /2	熊谷鳩居堂	下巻588	夜学行燈	782
別集73	/11/24	熊谷鳩居堂	下巻589	米庵宛の手紙	782
別集74	/ /	市河米庵	下巻590	「超然楼記」と扁額	783
別集75	/8/24	熊谷鳩居堂	下巻591	藤井五郎助宛の紙包	783
別集76	/1/4	熊谷鳩居堂	下巻592	江芸閣へ紹介	784
別集77	/ /12	熊谷鳩居堂	下巻593	道具借用	784
別集78	/2/29	熊谷鳩居堂	下巻594	尚古筆を松陰へ	785
別集79	/ /3	熊谷鳩居堂	下巻595	毛氈を贈られて	785
別集80	/12/23	熊谷鳩居堂	下巻596	贈られし三物	786
別集81	/8/8	熊谷鳩居堂	下巻597	防寒衣の不用	786
別集82	/ /27	熊谷鳩居堂	下巻598	雇婆	787

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集83	/11/16	熊谷鳩居堂(香具屋久右衛門)	下巻598	座敷借の保証人	787
別集84	/ /3	熊谷鳩居堂	下巻599	小森梅庵の頓死	787
別集85	/10/23	熊谷鳩居堂	下巻600	歯痛	788
別集86	/5/4	熊谷鳩居堂	下巻60	屋賃の先金	518
別集87	/9/7	熊谷鳩居堂(香具屋久右衛門)	下巻602	春の預金を秋に引出し	789
別集88	/11/25	熊谷鳩居堂(香具屋久右衛門)	下巻603	尾張人に貸金	789
別集89	/ /6	熊谷鳩居堂	下巻604	預金の内談	790
別集90	/2/17	熊谷鳩居堂(久右衛門)	下巻605	待人	790
別集91	/9/7	熊谷鳩居堂	下巻606	律義	791
別集92	/12/13	熊谷鳩居堂	下巻606	貸金の世話	791
別集93	/2/4	熊谷鳩居堂	下巻608	貸金の失敗	792
別集94	/3/1	熊谷鳩居堂	下巻609	評議は見合せ	792
別集95	/1/6	熊谷鳩居堂(香具屋久右衛門)	下巻609	案外の利息	792
別集96	/12/3	熊谷鳩居堂	下巻610	蕎麦と団子	793
別集97	/ /	熊谷鳩居堂	下巻611	餅	793
別集98	/11/23	熊谷鳩居堂	下巻612	蕎麦と餅	794
別集99	/ /12	熊谷鳩居堂	下巻613	金米糖・生菱漬	794
別集100	/12/4	熊谷鳩居堂	下巻614	五谷湯の功能	795
別集101	/ /	熊谷鳩居堂	下巻615	秋の安芸茄子	795
別集102	/ /13	熊谷鳩居堂	下巻616	柚味噌の製法	796
別集103	/12/8	熊谷鳩居堂	下巻617	亀屋の青餅	796
別集104	/6/21	熊谷鳩居堂(伯肅)	下巻618	香魚	797
別集105	/4/4	熊谷鳩居堂	下巻619	旨い物とは何	797
別集106	/8/23	熊谷鳩居堂	下巻619	熊野の牛玉	797
別集107	/ /	熊谷鳩居堂	下巻621	梨の貯蔵法	798
別集108	/ /10	熊谷鳩居堂	下巻621	門人たりとも潤筆	798

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集109	/11/9	熊谷鳩居堂	下巻622	牡丹餅と善哉	799
別集110	/ /16	熊谷鳩居堂	下巻624	甘酒進上	800
別集 第三 篠崎小竹・後藤松陰宛					
別集111	/4/22	後藤松陰	下巻625	松陰の婚約(其一)	800
別集112	/5/3	篠崎長左衛門	下巻627	松陰の婚約(其二)	801
別集113	/8?/3	篠崎小竹(承弼)	下巻629	読書と眼鏡	802
別集114	/ /	篠崎小竹(承弼)	下巻631	「春水遺稿」の整理に就いて	803
別集115	/2/7	後藤松陰	下巻631	後藤松陰の開塾	803
別集116	/6/	篠崎小竹	下巻634	色の薄い新酒	805
別集117	/8/26	篠崎小竹	下巻635	江州の鮎酢	805
別集118	/9/20	篠崎小竹	下巻637	美濃のありのみ	806
別集119	/4/14	篠崎小竹(承弼)	下巻638	子成一代の労費	807
別集120	/2/13	篠崎小竹,後藤松陰	下巻639	春蘭	807
別集121	/9/11	篠崎小竹	下巻641	樋野謙堂の冤罪	808
別集122	/8/11	篠崎小竹	下巻643	「大疑録」に就て	809
別集123	/9/27	篠崎小竹	下巻645	若狭物と丹波たばこ	810
別集124	文政10/閏6/25	篠崎小竹	下巻646	篆刻の交換	811
別集125	文政8/3/13	篠崎小竹	下巻649	京坂両地の隠れ家	812
別集126	/8/2	後藤松陰	下巻654	寄宿費は心配無用	815
別集 第四 小石元瑞宛					
別集127	/8/23	小石元瑞	下巻656	月見の代りに萩見	816
別集128	/2/10	小石元瑞	下巻657	京酒のたゝり	816
別集129	/ /27	小石元瑞	下巻658	春琴堂の感興	817
別集130	/ /	小石元瑞	下巻659	剣菱と泉川	817
別集131	/ /22	小石元瑞	下巻660	筍	818
別集132	/ /	小石元瑞	下巻661	散薬は辛く苦き方	818

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集133	//	小石元瑞	下巻662	酒と菓子	819
別集134	//	小石元瑞	下巻663	村瀬栲亭へ用事ありて	819
別集135	//	小石元瑞	下巻663	講銀よりも預金	819
別集136	/2/9	小石元瑞	下巻665	御さだまりの釣生洲	820
別集137	/3/27	小石元瑞	下巻667	「草書淵海」の借覧	821
別集138	/12/1	小石元瑞	下巻667	詩会	821
別集139	/1/7	小石元瑞	下巻668	文鳳と孝敬	822
別集140	/1/10	小石元瑞	下巻670	新年開講の吉例	823
別集141	/10/4	小石元瑞	下巻671	芥河文蔵の縁談	823
別集142	//22	小石元瑞	下巻672	白雪姫はなぜ遅い	824
別集143	//	小石元瑞	下巻673	白雪の口明け	824
別集144	/2/5	小石元瑞	下巻674	聯句の敗北	825
別集145	/4/11	小石元瑞	下巻675	安産の佳例	825
別集146	/2/18	小石元瑞	下巻676	「草彙」の原稿	826
別集147	/5/19	小石元瑞	下巻676	浴後の来訪	826
別集148	/7/12	小石元瑞	下巻677	一両二歩の十七帖	826
別集149	/7/8	小石元瑞	下巻678	預金	827
別集150	//	小石元瑞	下巻679	往訪の日取	827
別集151	/5/20	小石元瑞	下巻680	瓶花の所望	828
別集152	/2/24	小石元瑞	下巻681	風流乎、馬鹿乎	828
別集153	/6/29	小石元瑞	下巻681	吾家の施薬院	828
別集154	/9/25	小石元瑞	下巻682	吉田山へ同伴	829
別集155	/9/12	小石元瑞	下巻683	大坂にて後の月見	829
別集156	/2/24	小石元瑞	下巻683	臍の緒切ての大買物	829
別集157	/3/4	小石元瑞	下巻685	蘭方志願の書生	830
別集158	/12/3	小石元瑞	下巻686	みやげ	831

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集159	/2/5	小石元瑞,雲華,大含	下巻687	梅坡と連名にて	831
別集160	//	小石元瑞	下巻689	春水紙帳詩の次韻	832
別集161	文政2/閏4/14	小石元瑞	下巻690	登々庵にて月見	833
別集 第五 大倉笠山宛					
別集162	//12	大倉笠山	下巻691	挿木の月季花	833
別集163	//25	大倉笠山	下巻692	夫君の調理・令閨の詩	834
別集164	//	大倉笠山	下巻693	小姑に薄塩の鯛	834
別集165	/9/26	大倉笠山	下巻694	笠山宅へ会合	835
別集166	//2	大倉笠山	下巻695	十友詩の添創	835
別集167	/4/14	大倉笠山	下巻696	二軒茶屋の田楽	836
別集168	//21	大倉笠山	下巻697	外史の写本	836
別集169	/5/2	大倉笠山	下巻697	会読お休ならば	836
別集170	/12/19	大倉笠山	下巻698	橋本竹下依頼の画	837
別集171	//15	大倉笠山	下巻699	早行水にて筍料理	837
別集172	//17	大倉笠山	下巻700	聯の片方は不出来	838
別集173	//16	大倉笠山	下巻701	焼鮎	838
別集174	/10/15	大倉笠山	下巻701	薯蕷と香茸	838
別集175	/3/3	大倉笠山	下巻702	雲華同伴にて長喜庵	839
別集176	//4	大倉笠山	下巻703	同人相伴うて	839
別集177	/2/14	大倉笠山	下巻704	内藤静脩と伏見看梅	840
別集178	/6/23	大倉笠山	下巻705	雲華催しの朱雀行	840
別集 第六 大八木静斎宛					
別集179	/7/1	大八木静斎	下巻706	御肴は洗豆腐	841
別集180	/2/9	大八木静斎	下巻707	蔵書は門外不出	841
別集181	/11/25	大八木静斎	下巻708	朝の茶粥に粟餅	842
別集182	/10/10	大八木静斎	下巻709	聴講よりも身分の落着	842

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集183	/9/20	大八木静斎	下巻710	節尽の一酌	843
別集184	/1/7	大八木静斎	下巻710	入日の雪	843
別集185	/9/15	大八木静斎	下巻711	こども同士の学友	843
別集186	/6/5	大八木静斎	下巻712	膾と桃	844
別集187	/4/9	大八木静斎	下巻713	押かけ参上	844
別集188	/12/13	大八木静斎	下巻714	晩酌の案内	845
別集189	/10/1	大八木静斎	下巻715	夜中から東国通鑑	845
別集190	/11/25	大八木静斎	下巻716	初対面の挨拶	846
別集191	/9/17	大八木静斎	下巻717	一井家の古文書整理	846
別集192	/3/18	大八木静斎	下巻718	下坂の報知	847
別集193	/ /3	大八木静斎	下巻719	こども二人参上	847
別集194	/9/25	大八木静斎	下巻720	御夫婦づれにて	848
別集195	/ /	大八木静斎	下巻721	歳暮御祝儀の礼	848
別集196	/10/29	大八木静斎	下巻722	原稿の余白に朱答	849
別集197	/3/20	大八木静斎	下巻723	帰り道に一詩	849
別集198	/12/23	大八木静斎	下巻724	年の瀬に清朝叢書	850
別集199	/ /	大八木静斎	下巻726	家園の芋	851
別集200	/ /	大八木静斎	下巻728	脇差のつくろひに就て	852
別集 第七 原老柳宛					
別集201	/ /14	原老柳	下巻730	梅雨と酒	853
別集202	/ /	原老柳	下巻731	近火と柳	853
別集203	/8/15	原老柳	下巻732	月下の泉州	854
別集204	/13/3	原老柳	下巻733	沢の鶴にて数幅	854
別集205	/4/13	原老柳	下巻735	二斗樽二度よりも大樽	855
別集 第八 坂上桐蔭宛					
別集206	/1/24	坂上桐蔭	下巻737	この空樽に	856

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集207	/9/2	坂上桐陰(坂上間三郎)	下巻738	祖母の弔慰	857
別集208	//	坂上桐陰	下巻739	芋	857
別集209	//	坂上桐陰	下巻739	酒器の箱銘	857
別集210	//	坂上桐陰?	下巻740	手本の潤筆	858
別集211	/10/10?	坂上桐陰	下巻740	伊丹の火事	858
別集212	/6/晦	坂上桐陰	下巻741	酒の火入	858
別集213	/4/14	坂上桐陰	下巻743	画禁を破りて	859
別集214	//	坂上桐陰	下巻744	一日も早く預金	860
別集215	/2/1	坂上桐陰	下巻745	活版の小冊子	860
別集216	//	坂上桐陰(坂上勘三郎)	下巻746	小野桐陰広島送りの酒	861
別集127	/6/8	坂上桐陰(長古堂主人)	下巻747	籠と酒	861
別集218	/12/7	坂上桐陰	下巻748	国産の磁杯	862
別集219	/7/7	坂上桐陰	下巻749	七夕のおそなへ	862
別集220	/3/10	坂上桐陰(坂上閑三郎)	下巻750	石山行	863
別集 第九 内藤静修宛					
別集221	/11/1	内藤静脩(静脩)	下巻751	子謙と士謙	863
別集222	/9/16	内藤静脩(士謙)	下巻752	揮毫の幅を展覧会へ	864
別集223	/10/4	内藤静脩	下巻753	贅沢の肴は無用	864
別集224	/2/8	内藤静脩(子謙)	下巻754	看梅軍の方略	865
別集225	/8/15	内藤静脩(内藤十郎兵衛)	下巻754	月見の案内	865
別集226	//19	内藤静脩(子謙)	下巻755	使をまたせて添削	865
別集227	//	内藤静脩(静脩)	下巻757	十影十声詩の揮毫	866
別集 第十 岩崎鷗雨宛					
別集228	/11/晦	岩崎鷗雨	下巻759	楼名と記文	867
別集229	/3/29	岩崎鷗雨(岩碕)	下巻759	酔裏の墨戯	867
別集230	/3/5	岩崎鷗雨	下巻760	源五郎鮒	868

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集231	/12/19	岩崎鷗雨(岩碕)	下巻761	百谷画の題字	868
別集231	/8/7	岩崎鷗雨(喜助)	下巻761	試食の江州米	868
別集232	/1/28	岩崎鷗雨	下巻762	新婚祝の画題	869
別集233	/5/20	岩崎鷗雨(岳崎喜助)	下巻763	王昭君の画卷と面	869
別集234	/7/14	岩崎鷗雨	下巻764	謹み過ぎて誤字	870
別集235	文政7/2/24	岩崎鷗雨	下巻766	師弟同時の風疹	871
別集236	天保2/2/17	岩崎鷗雨(岩崎雍)	下巻767	月瀬行の誘引	871
別集 第十一 橋本竹下宛					
別集237	/1/24	橋本竹下(元吉)	下巻769	竹下巻の周旋料に備後表	872
別集238	//	橋本竹下	下巻770	玩賞に値せぬ画面	873
別集239	//	橋本竹下	下巻771	揚州と抹茶	873
別集240	//	橋本竹下	下巻772	詩句の推敲	874
別集 第十二 江馬細香宛					
別集241	/11/2	江馬細香	下巻774	詩家の真訣	875
別集242	/3/27	江馬細香	下巻775	押し花	875
別集243	/1/12	江馬細香	下巻775	緑鳧と丹釀	875
別集244	//	江馬細香	下巻776	織手に大字は不韻	876
別集245	/1/12	江馬細香	下巻777	清書は見事	876
別集246	/4/12	江馬細香	下巻779	女は人に可愛がらる	877
別集247	/4/17	江馬細香	下巻780	名字の選定	878
別集 第十三 梁川星巖宛					
別集248	/10/17	梁川星巖(星岳)	下巻781	香川春樹へ同伴	878
別集249	/10/17	梁川星巖(星岳)	下巻782	手細工に瓢のつくろひ	879
別集250	/3/30	梁川星巖	下巻783	ゆく春に田楽	879
別集251	/ /20	梁川星巖(星岳)	下巻783	山紫水明の時刻ならずとも	879
別集252	/5/11	梁川星巖(星岳)	下巻784	餞飲の案内	880

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集253	/ /3	梁川星巖(星岳)	下巻785	小原梅坡と同酔	880
別集254	/ /23	梁川星巖(星岳)	下巻786	転宅見舞	881
別集 第十四 牧百峰宛					
別集255	/4/8	牧百峰	下巻787	彤山へ同伴	881
別集256	/8/18	牧百峰(善助)	下巻788	山谷刀筆とその抄録(其一)	882
別集257	/12/9	牧百峰(頼斎)	下巻789	山谷刀筆とその抄録(其二)	882
別集258	/ /10	牧百峰	下巻790	明夕の来話	883
別集259	/10/28	牧百峰	下巻791	代作の礼に筆一對	883
別集260	/ /2	牧百峰(頼斎)	下巻792	文筆添削の助手	884
別集261	/ /	牧百峰(善助)	下巻793	「西遊稿」と「山陽詩鈔」	884
別集262	/9/12	牧百峰	下巻794	小竹の傑作	885
別集 第十五 宮原節庵宛					
別集263	/7/29	宮原節庵(謙蔵)	下巻795	龍文堂へ居催促	885
別集264	/12/18	宮原節庵(謙蔵)	下巻796	餅つきの跡は酒	886
別集265	/ /28	宮原節庵(謙蔵)	下巻797	伊丹の潤筆酒五升	886
別集266	/ /	宮原節庵(謙蔵)	下巻798	貫名海屋へ一走り	887
別集267	/ /	宮原節庵(謙蔵)	下巻798	障子のほりかへ	887
別集 第十六 小島彤山宛					
別集268	/10/4	小島彤山	下巻799	研のつくろひ(其一)	887
別集269	/12/2	小島彤山	下巻600	研のつくろひ(其二)	788
別集270	/2/10	小島彤山	下巻801	元祐古銅餅と銅研	888
別集271	/1/24	小島彤山	下巻802	春雨に平曲	889
別集272	/ /28	小島彤山	下巻803	御馳走して聴きたがる平曲	889
別集273	/9/15	小島彤山	下巻804	見せてほしい研	890
別集 第十七 月峰上人宛					
別集274	/3/23	月峰上人(長喜庵)	下巻805	出品と出品料	890

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集275	/3/23	月峰上人(長喜庵)	下巻806	来てくれねば絶交	891
別集276	/9/9	月峰上人	下巻807	寒厨、生色あり	891
別集277	/彼岸前2日	月峰上人	下巻808	梅見の予約	892
別集278	/10/1	月峰上人,青木木米	下巻809	寒蘭	892
別集 第十八 雲華上人宛					
別集279	/10/12	雲華上人	下巻810	通鑑本末提要と済世古鑑	893
別集280	/11/26	雲華上人	下巻812	漱金紙へ押毫	894
別集281	/4/22	雲華上人(雲師)	下巻813	女同志の相惚れ	894
別集282	/12/15	雲華上人	下巻814	雪見に古酒	895
別集 第十九 亀山夢硯宛					
別集283	/9/19	亀山夢研(再夢硯)	下巻815	硯は贗物	895
別集284	/11/7	亀山夢研(亀山元助)	下巻817	展玩したき名画	896
別集285	/11/15	亀山夢研	下巻818	尾道の銘酒	897
別集286	/7/5	亀山夢研	下巻819	竹下の蔵硯と伯仲	897
別集 第二十 久米牀山宛					
別集287	/3/8	久米牀山(久米賈)	下巻821	小野田簡斎を迎ふべく	898
別集288	/2/25	久米牀山	下巻822	七十五日の生のび	899
別集289	/ /4	久米牀山(久米純太)	下巻823	彦根の牛肉	899
別集 第二十一 市河米庵宛					
別集290	/ /	市河米庵	下巻824	鳩居堂の「毛穎考」	900
別集291	/ /	市河米庵(高木)	下巻826	超然楼の額字	901
別集 第二十二 木下逸雲宛					
別集292	/4/18	木下逸雲	下巻827	顧鉄卿の著書に題詞	901
別集293	/5/7	木下逸雲(志賀介)	下巻829	「頤索堂詩集」の評	902
別集 第二十三 松永花遁宛					
別集294	/7/24	松永花遁(子登)	下巻830	「西遊稿」の出版に就て	903

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集295	/2/10	松永花遁(士登)	下巻833	臨書一閱	904
別集 第二十四 浦上春琴宛					
別集296	/ /12	浦上春琴	下巻834	楼上にて雨を見るべく	905
別集297	/4/22	浦上春琴	下巻835	杜詩を本歌取にして	905
別集 第二十五 村瀬藤城宛					
別集298	/6/17	村瀬藤城(士錦)	下巻836	九州記念の硯	906
別集299	/10/19	村瀬藤城(士錦)	下巻838	「浙西・六家詩評」の原稿	907
別集 第二十六 小野藤陰宛					
別集300	/ /	小野桐陰	下巻839	宮崎家の酒	907
別集301	/10/1	小野桐陰	下巻840	竹洞の画を送りて	908
別集 第二十七 阿部良山宛					
別集302	/11/10	阿部良山	下巻841	印章の注文	908
別集303	/6/29	阿部良山	下巻843	暗夜の帰京	909
別集 第二十八 香川春村宛					
別集304	/5/5	香川春村	下巻844	泉川と箏	910
別集305	/7/13	香川春村	下巻845	酒のきれ目	910
別集 第二十九 武元登々庵宛					
別集306	/11/28	武元登々庵	下巻846	「古詩韻範」を贈られて	911
別集307	/7/16	武元登々庵	下巻847	病氣見舞に煎茶	911
別集 第三十 小野田簡斎宛					
別集308	/7/20	小野山簡斎(小野田小一郎)	下巻849	彦根藩と「外史」	912
別集309	/3/7	小野山簡斎(元熙)	下巻849	支那表装のまゝ	912
別集 第三十一 小田百谷宛					
別集310	/閏 /7	小田百谷	下巻851	沙川へ同伴	913
別集311	/12/20	小田百谷(海儼)	下巻852	画の潤筆	914
別集 第三十二 田中藤七宛					

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集312	/1/10	田中藤七	下巻853	槍	914
別集313	/7/20	田中藤七	下巻854	五島するめ	915
別集 第三十三 蓑橋宛					
別集314	/10/13	蓑橋	下巻856	南洞公よりの葱	916
別集315	/11/5	蓑橋	下巻857	銘酒沢鶴	916
別集 第三十四 坪井某宛					
別集316	//	坪井某	下巻858	堤燈	917
別集317	/11/10	坪井某	下巻859	書画に印	917
別集318	/4/7	坪井某(霞山)	下巻861	南洞公よりの御招待	918
別集319	/6/16	坪井某(霞山)	下巻861	霞山の画	918
別集 第三十五 雑					
別集320	//	頼春風	下巻862	修史と通語・大日本史	919
別集321	//	頼杏坪	下巻867	楠公の詩を示されて	921
別集322	//	頼聿庵	下巻872	新流行の烟管と筒	924
別集323	/3/18	頼達堂(三千三)	下巻873	自画賛山水	924
別集324	//	梶山立斎	下巻874	幽居中の陳情	925
別集325	/8/26	平塚瓢斎(平塚善十郎)	下巻890	「外史」の写本	933
別集326	/9/13	三井雪航(隆斎)	下巻891	篆刻の労に酬ゆべく	933
別集327	/9/4	田能村竹田	下巻893	書画の鑑定	934
別集328	/8/3	小野移山亭(小野本太郎)	下巻894	頼み切たる尾形三郎	935
別集329	/1/14	小野移山亭	下巻895	紫石硯と潤筆三十両	935
別集330	//	小野招月亭(泉蔵)	下巻900	詩韻と詩体	938
別集331	/8/5	片山九畹	下巻902	「精華録」「頼古堂集」	939
別集332	/2/25	蒲生万五郎	下巻903	江戸の筆工	939
別集333	//2	藤井雪堂(梅竹)	下巻904	平曲の友	940
別集334	/12/22	駒井数馬	下巻905	歳晩の団欒	940

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集335	/6/29	藤井機園	下巻906	飛脚宿へ雷	941
別集336	/3/6	広江殿峰,秋水(広江吉右衛門)	下巻908	揮毫	942
別集337	/ /	奥田清十郎	下巻909	論苑を贈られて	942
別集338	/12/1	宮崎木雞	下巻911	鯛は味噌漬	943
別集339	/5/21	服部竹塙	下巻913	同酔仕度もの	944
別集340	/9/6	快雪	下巻914	子供の教育	945
別集341	/6/8	介川緑堂(介川東馬)	下巻915	酒は酒屋	945
別集342	/4/20	安井九兵衛	下巻916	芝居茶屋	946
別集343	/9/6	甲斐士幹	下巻917	頼もしき門人	946
別集344	/6/22	柳溪	下巻918	病気見舞	947
別集345	/5/10	佐竹勘兵衛	下巻919	餞飲の案内(其一)	947
別集346	/ /	木村力山	下巻920	朱答	948
別集347	/9/21	山田友益	下巻923	菅微卿の勉強振り	949
別集348	/11/18	萩野越中介	下巻925	印会に出品	950
別集349	/12/9	葛原某(葛源)	下巻926	手本と書法	951
別集350	/ /25	琴屋	下巻928	円山の詩会	952
別集351	/9/27	風航上人	下巻929	詩評延引	952
別集352	/10/12	河内屋吉兵衛	下巻930	「朝鮮史略」と「小倉山房文鈔」	953
別集353	/6/13	松本文平	下巻931	茶譜・茶録	953
別集354	/1/20	虚月	下巻932	待ぼけの恨	954
別集355	/11/2	藤野某	下巻933	熱心は成功の基	954
別集356	/1/9	岸琴泉父子(六右衛門,長太郎)	下巻934	岡田鰈	955
別集357	/11/7	東溪	下巻935	「小竹斎詩話」を贈りて	955
別集358	/1/6	山根惣蔵	下巻937	雑煮の振舞	956
別集359	/ /16	秋吉雲桂	下巻938	紙入地の小倉織	957
別集360	/12/27	田沼玄々斎(田辺飛州)	下巻939	鴨と「三ツ輪」酒	957

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集361	/12/17	武内確斎?(子玉)	下巻940	小鳧	958
別集362	/11/4	藤井機園(藤井彦七郎)	下巻941	文雖片々	958
別集363	/3/6	枕雲上人	下巻943	竹洞倪法寒林図の賛	959
別集364	/8/22	高橋倉山(恕介)	下巻944	笠山・袖蘭夫妻を紹介	960
別集365	/6/21	栗津裾斎?(谷衣)	下巻947	淡中濃味の調理法	961
別集366	/9/19	桜田澹斎(桜田権太夫)	下巻947	自家の詩品	961
別集367	/8/12	雄助	下巻948	京芋の効能	962
別集368	/ /	北条霞亭	下巻950	その「楠公墓下作」に就いて	963
別集369	/1/22	中川漁村(禄郎)	下巻951	知恩院の御忌	963
別集370	文化13/5/18	福島元儼	下巻952	唐墨を手に入れんと	964
別集371	/ /	?(春風?)	下巻954	「春水遺稿」の序文	965
別集372	/ /17	?	下巻955	納涼と漁事	965
別集373	/9/3	?(鳩居堂?)	下巻956	熊野の牛王	966
別集374	/12/19	?	下巻958	活学問	967
別集375	/11/17	?(小石元瑞?)	下巻958	粥と茶漬	967
別集376	/5/1	?	下巻960	御祝痛入	968
別集377	/10/26	?	下巻960	到来の魚	968
別集378	/ /14	?	下巻961	そばと鳥肉	968
別集379	/冬至後3日	?	下巻962	藩侯、春風宅へ来駕	969
別集補遺380	/8/17	篠崎小竹	下巻964	山ぶらの還りに	970
別集補遺381	/ /25	大八木静斎	下巻966	心やすく往来	971
別集 補遺 菅茶山宛					
別集補遺382	文化5/6/11	菅芥山	下巻969	小竹の来書に感じて	972
別集補遺383	/4/4	菅茶山	下巻974	「福山志科」の監修	975
別集補遺384	文化6/6/26	菅茶山	下巻977	菅耻庵の碑文	976
別集補遺385	文化9/1/10	菅茶山	下巻981	徳太郎と改名	978

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
別集補遺386	文政3/5/25	菅茶山	下巻984	「西遊稿」の題詩	980
別集 補遺 梁川星巖宛					
別集補遺387	/7/24	梁川星巖	下巻986	溢るゝ友情	981
続編 第一編 寛政六年(15歳)～文化九年(33歳)					
続編 1	寛政6/9/27	春水,梅颯	続編1	竹原へ転地	1008
続編 2	寛政9/10/21	梅颯	続編5	江戸遊学中の身辺	1010
続編 3	文化3/8/7	篠崎小竹(承弼)	続編9	古賀侗菴の文辞	1012
続編 4	文化4/7/7	菅茶山	続編12	露艦の来寇に就て(其一)	1014
続編 5	文化5/2/19	石井豊洲	続編17	眼病中に「孟子」の評点	1016
続編 6	文化5/4/7	?	続編19	武元登々庵を紹介	1017
続編 7	文化6/3/22	石井豊洲(石井儀右衛門)	続編21	景讓の隠志と家督相続	1018
続編 8	文化7/4/28	篠崎小竹(承弼)	続編25	菅茶山の三島寿詩	1020
続編 9	文化7/4頃/	篠崎小竹	続編28	小寺鳩峰の訃	1022
続編 10	文化7/12/11	篠崎小竹(長左衛門)	続編30	廉塾飛び出しの魂胆	1023
続編 11	文化8/2/20	篠崎小竹(篠崎長左衛門)	続編38	獅子の子落し	1027
続編 12	文化8/3/17	小石櫻園	続編41	大坂より再入京の決意	1028
続編 附1	文化8/閏2/16	篠崎小竹→小石元瑞	続編45	櫻園へ山陽を紹介(其一)(其二)	1030
続編 附2	文化8/3/17	篠崎小竹→小石元瑞	続編48	山陽下坂二付櫻園宛	1032
続編 13	文化8/3/19	山家屋権兵衛(奥邨権兵衛)	続編50	借宅の相談	1033
続編 14	文化8/3/23	小石櫻園	続編51	京都借宅の相談	1033
続編 15	文化8/4/3	田能村竹田	続編57	大坂にて初対面	1036
続編 16	文化8/4/20	純泰	続編59	成趣園へ仮寓	1037
続編 17	文化9/5/19	村瀬藤城(村瀬敬次)	続編63	煮こじけの誠斎・うで直しの其昌	1039
続編 18	文化9/6/10	篠崎小竹	続編64	男児出産のよろこび	1040
続編 19	文化9/7/1	篠崎小竹	続編66	天神祭よりも会談の楽しみ	1041
続編 20	文化9/8/24	篠崎小竹	続編68	「日本外史」の論賛に着手	1042

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 第二編 文化十年(34歳)～文化十四年(38歳)					
続編 21	文化10/1/14	篠崎小竹	続編73	「日本外史」の写本(其一)	1045
続編 22	文化10/3/6	篠崎小竹(承弼)	続編76	捨てる神と拾ふ神	1047
続編 附5	文化10/3/24	篠崎小竹→羅井徳太郎,小石元瑞	続編78	春水の来着報知	1048
続編 23	文化10/4/13	篠崎小竹	続編80	春水を迎へて	1049
続編 24	文化10/4/18	篠崎小竹	続編82	「遜志斎集」と「絳帖」の交換	1050
続編 25	文化10/5/6	篠崎小竹(承弼)	続編84	入京三年目の家計	1051
続編 26	文化10/6/25	村瀬藤城	続編86	尾濃游歴は未定	1052
続編 27	文化10/6/27	篠崎小竹(長左衛門)	続編87	「古詩韻範」の宣伝	1052
続編 28	文化10/8/25	村瀬藤城(村瀬敬次)	続編90	名古屋行の予報	1054
続編 29	文化10/9/24	小石榊園	続編93	依頼の二件	1055
続編 30	文化10?/ /	篠崎小竹(承弼)	続編95	意中の新妻	1056
続編 31	文化10/9/31	篠崎小竹	続編98	「草彙」の出版に就て(其一)	1058
続編 附6	/3/11	篠崎小竹→小石元瑞	続編100	「草彙」出版に就て榊園へ	1059
続編 32	文化10/10/8	篠崎小竹	続編102	「外史」の写本(其二)	1060
続編 33	文化10/10/8	小石榊園	続編104	尾濃方面へ遊歴	1061
続編 34	文化10/10/20	小石榊園	続編106	遊歴中、塾生の監督	1062
続編 35	文化10/11/13	小石榊園	続編109	愛人細香女史と結婚の相談	1063
続編 附7	文化11/8/25	春水→小石元瑞	続編117	山陽に対する厚意を謝して(其一)	1067
続編 36	文化10/閏11/20	村瀬藤城	続編119	再度の大垣行	1068
続編 37	文化10/12/3	小石榊園	続編121	帰京後の借宅	1069
続編 38	文化11/2/16	篠崎小竹	続編123	梨影の頼家人り	1070
続編 39	文化11/3/8	村瀬藤城	続編130	「外史」の報酬及び真珠墨	1074
続編 40	文化11/5/13	篠崎小竹	続編134	菅茶山の江戸行を送るべく	1076
続編 41	文化11/6/18	村瀬藤城	続編139	古法帖の探求	1078
続編 42	文化11/7/11	篠崎小竹	続編139	篠崎三島の碑文	1078

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 附9	/12/1	篠崎小竹→壺関(侗庵?)	続編145	碑文の撰者を精里に請ふ	1081
続編 43	文化11/9/14	中村太室?	続編146	古書画の口きゝ(其一)	1082
続編 44	文化11/9/18	小石櫓園	続編149	梨影の妊娠と入籍	1083
続編 附10	文化11/9/10	春水→小石元瑞	続編153	山陽に対する厚意を謝して(其二)	1085
続編 附11	文化12/4/29	春水→小石元瑞	続編156	山陽に対する厚意を謝して(其三)	1087
続編 45	文化11/9/22	小石櫓園	続編158	帰京の道程と留守中の雑用	1088
続編 46	文化12/6/20	村瀬藤城(土錦)	続編161	二条高倉へ転居及び詩韻論	1089
続編 47	文化13/4/18	梅颯, 聿庵	続編164	父の遺金は預金(其一)	1091
続編 48	文化13/5/27	篠崎小竹(承弼)	続編168	孝子の慚悔	1093
続編 49	文化13/6/8	篠崎小竹(承弼)	続編170	春水の心喪	1094
続編 50	文化13/7/1	村瀬藤城	続編173	「清百家絶句」の編纂(其二)	1095
続編 51	文化13/7/29	篠崎小竹(承弼)	続編175	「草彙」の出版に就て(其二)	1096
続編 52	文化13/閏8/11	篠崎小竹	続編177	「草彙」の出版に就て(其三)	1097
続編 53	文化13/閏8/11	村瀬藤城(土錦)	続編179	「清百家絶句」の編纂(其三)	1098
続編 54	文化13/閏8/21	梅颯, 聿庵	続編181	春水と敬讓との墓碑	1099
続編 55	文化14/11/24	篠崎小竹(承弼)	続編184	「草彙」の出版に就て(其四)	1101
続編 56	文化13/11/25	梅颯, 聿庵	続編186	墓参帰省に友人の異議	1102
続編 第三編 文政元年(39歳)～文政十年(48歳)					
続編 57	文政元/3頃/	頼聿庵	続編189	松永花遁の接待	1104
続編 58	文政元/11/4	田能村竹田(君彝)	続編190	竹田主催の送別宴	1105
続編 59	文政2/3/26	江馬細香	続編194	九州より帰りて吉野行	1107
続編 60	文政2/閏4/1	武内確斎	続編195	小竹の娘を連れて	1107
続編 61	文政2/閏4/20	菱田毅斎(菱田清次)	続編197	後藤松陰と武内家の縁談	1108
続編 62	文政2/5/13	梅颯, 聿庵	続編202	「広邑新墾碑」の浄写	1111
続編 63	文政2?/ /	篠崎小竹	続編206	三島の遺稿と「春水遺稿」	1113
続編 64	文政2/8/19	村瀬藤城	続編209	その仕官を諷して	1114

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 65	文政3/1/28	梅颯, 聿庵	続編211	聿庵の初婚祝	1115
続編 66	文政3/6/19	阿部良山	続編215	大坂へ避暑	1117
続編 67	文政3/6/29	?	続編216	大坂よりの転贈品	1118
続編 68	文政3/8/9	秋吉雲桂	続編217	その亡妻へ供物(其一)	1118
続編 69	文政3/8/21	秋吉雲桂	続編219	その亡妻へ供物(其二)	1119
続編 70	文政3/9/1	村瀬藤城	続編220	「蘇黄尺牘」の校刊	1120
続編 71	文政4/3?/18	秋吉雲桂	続編222	薔薇園の新居準備	1121
続編 72	文政4/10/11	頼聿庵(餘一)	続編223	「春水遺稿」の整理(其二)	1121
続編 73	文政4/ /28	後藤松陰	続編226	清朝人の文章	1123
続編 74	文政5/3/2	佐藤一斎	続編229	相互詩文の録示	1124
続編 75	文政5/4/4	秋吉雲桂	続編232	松陰・白巖の入塾	1126
続編 76	文政5/5/25	篠崎小竹, 武内確斎	続編234	文房七珍中の研山	1127
続編 77	文政5/7/10	村瀬藤城(士錦)	続編237	「漢溪書法通解序」の添削	1128
続編 78	文政5/8/13	秋吉雲桂	続編238	「米法千字文」の手本	1129
続編 79	文政5/8/29	岡田半江	続編240	地爐利を進呈	1130
続編 80	文政5/11/2	秋吉雲桂	続編241	三本木の新居に就て	1130
続編 81	文政5/11/19	江馬細香, 村瀬藤城	続編243	水西草堂の風趣	1131
続編 82	文政5/12/14	秋吉雲桂	続編246	買家見合せ(其一)	1133
続編 83	文政5/12/19	小石櫟園	続編247	観雪の清興	1133
続編 84	文政5/12/23	秋吉雲桂	続編249	買家見合せ(其二)	1134
続編 85	文政6/2/19	小石櫟園	続編250	斎居を慰められて	1135
続編 86	文政6/5/23	秋吉雲桂	続編252	聖護院へ新築の相談	1136
続編 87	文政6/6/28	浦上春琴, 小田百谷	続編253	雲華主催の糺森納涼	1136
続編 88	文政6/11/19	小石櫟園	続編255	「隨縁沙弥語録」の評	1137
続編 89	文政6/11/晦	小石櫟園(秋岳)	続編256	「輟耕録」の借閲	1138
続編 90	文政7/1/23	小石櫟園	続編258	竹田を送りて大坂より帰京	1139

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 91	文政7/5/13	田辺玄々(飛州)	続編260	宇治から帰つて宇治の肴	1140
続編 92	文政7?/5/14	秋吉雲桂	続編261	方望溪の全集	1140
続編 93	文政7/5/24	田辺玄々(田辺飛驒)	続編263	朱雀丹波屋への案内	1141
続編 94	文政7/6/	篠崎小竹	続編265	天神祭を母に見せたく	1142
続編 95	文政7/7/8	武内確斎,広瀬筑梁	続編266	雨中の閑談	1143
続編 96	文政7/閏8/29	菅茶山	続編268	「阿雪伝」の脱稿	1144
続編 97	文政7/ /	東湖	続編272	茶碗竹筒の書彫	1146
続編 98	文政8/1/25	菅茶山	続編274	五日間滞留の礼状	1147
続編 99	文政8/5/3	田辺玄々(飛州)	続編276	辰蔵の夭死	1148
続編 100	文政8/5/17	小石櫟園	続編277	蘭屋の入門と猫	1148
続編 101	文政8/6/14	坂上桐陰	続編279	大坂より酒の事	1149
続編 102	文政8/7/20	雲華	続編280	櫟園と同舟下坂	1150
続編 103	文政8/8/21	小石櫟園	続編283	姫路行の留守を頼みて	1151
続編 104	文政8/11/17	小石櫟園	続編285	習字の教へ方	1152
続編 105	文政8/12/15	小石櫟園	続編286	展墓詩稿の添削	1153
続編 106	文政9/2/11	小石櫟園	続編289	伏見の観梅(其一)	1154
続編 107	文政9/2/12	小石櫟園	続編390	伏見の観梅(其二)	1205
続編 108	文政9/4/9	市河米庵	続編292	歓迎の案内(其二)	1156
続編 109	文政9/4/21	梅颯	続編293	越智高洲の訃	1156
続編 110	文政9/5/5	平塚瓢斎(平塚善十郎)	続編296	芭蕉像賛の作意	1158
続編 111	文政9/7/20	梅颯	続編298	妹三穂死去の弔慰	1159
続編 112	文政9/7/25	雲華	続編302	忌中の弔慰に答へて	1161
続編 113	文政9?/10/14	小石櫟園	続編304	後赤壁の夕	1162
続編 114	文政9/ /	小石櫟園	続編306	「外史」の刪定と資料(其一)	1163
続編 115	文政9/12/17	小石櫟園	続編308	「外史」の刪定と資料(其二)	1164
続編 116	文政10/3?/1	秋吉雲桂	続編310	吉野行の大瓢	1165

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 117	文政10/4/14	坂上桐陰(長古堂)	続編311	酒の延着と樽の荷札	1165
続編 118	文政10/5/	梅颯	続編314	日野南洞公より送別の歌	1167
続編 119	文政10/閏6/24	原老柳?(独柳園)	続編315	揮毫の潤筆	1167
続編 120	文政10/9/24	村瀬藤城(土錦)	続編318	中風患者の手当法	1169
続編 121	文政10/3?/6	梅颯	続編321	河東への移転は見合せ	1170
続編 122	文政10/11/6	小石櫟園(元瑞)	続編325	「続米庵墨談序」の初稿	1172
続編 123	文政10/11/6	篠崎小竹	続編327	茶山遺愛の竹杖	1173
続編 124	文政10/11/8	武内確斎,後藤松陰	続編331	「華臍魚歌」と「裴度論」	1175
続編 125	文政10/12?/28	田辺玄々	続編333	「玄々山人磁印譜」の序文	1176
続編 第四編 文政十一年(39歳)～天保二年(52歳)					
続編 126	文政11/1/8	坂上桐陰(長古堂),原老柳(老柳園)	続編335	「詠史」十八首の揮毫	1178
続編 127	文政11/ /	後藤松陰(世張)	続編337	「桓武陵」と「桃竹刀鞘」との詩	1179
続編 128	文政11/8/21	田辺玄々(田辺飛驒)	続編340	東寺宝物展観の一挿話	1181
続編 129	文政11/11/9	坂上桐陰	続編342	鳳蘭の花	1182
続編 130	文政11?/11/27	梅颯	続編343	景樹の逸話と「土佐日記新解」	1182
続編 131	文政12/2/3	坂上桐陰	続編345	広島送りの酒	1183
続編 132	文政12/6/5	柘植三清	続編348	柘植葛城の縁談	1185
続編 附12	文政12/2/5	葛城君績	続編349	右に就て	1185
続編 133	文政12/7/3	坂上桐陰	続編350	潤筆には白雪一樽	1186
続編 134	文政12/7/9	秋吉雲桂	続編351	油団	1186
続編 135	文政12/8/13	後藤松陰(世張)	続編353	「日本楽府」の序跋	1187
続編 136	文政12?/11/10	小石櫟園	続編355	帰郷の途中より	1188
続編 137	文政12/12/2	小石櫟園	続編356	帰京勿々の書画あさり	1189
続編 138	文政12/12/4	櫟園,竹田,春琴,百谷,西皐,雲華	続編358	蔵画の鑑賞	1190
続編 139	文政12/12/15	田能村竹田	続編360	春琴の明人便面書画冊展観	1191
続編 140	文政12/12/24?	井上某	続編362	竹田と小集	1192

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 141	文政12/ /	聿庵	続編363	「春水遺稿」の刻版に就て	1192
続編 142	天保元/3/1	坂上桐陰	続編365	「赤壁賦」の手本	1193
続編 143	天保元/閏3/23	小石櫟園	続編366	青田の揮毫は御免	1194
続編 144	天保元/4/8	坂上桐陰	続編368	剣菱の濁り	1195
続編 145	天保元?/4/4	村瀬藤城	続編370	村瀬家の経紀(其一)	1196
続編 146	天保元/5/19	篠崎小竹	続編374	「祭楽翁公文」	1198
続編 147	天保元?/6/3	梅颯,聿庵夫妻	続編376	病後の手当と葛餅の製法	1199
続編 148	天保元/9/2	坂上桐陰	続編381	揮毫は気色の好き時	1201
続編 149	天保元/10/18	村瀬藤城(土錦)	続編382	三年喪論及び「通議」・「題跋」の抱負	1202
続編 150	天保元/10/19	坂上桐陰	続編386	仿孔石村法山水図	1204
続編 151	天保元/11/3	岡田半江	続編388	絲桐女史の遺墨に題して	1205
続編 152	天保元/11/12	熊谷鳩居堂	続編392	陽子の誕生(其二)	1207
続編 153	天保元/11/16	小石櫟園	続編393	陽子の誕生(其三)	1207
続編 154	天保元/12/9	小石櫟園	続編395	旧藩侯忌中の慎み	1208
続編 155	天保元/ /	篠崎小竹	続編396	「通議」の整理(其一)	1209
続編 156	天保元/ /	聿庵	続編399	門限の戒	1210
続編 157	天保元/ /	聿庵	続編400	「春水遺稿」開版の総算用	1211
続編 158	天保2/1/11	篠崎小竹	続編402	「通議」の整理(其三)	1212
続編 159	天保2/2/29	坂上桐陰	続編404	月瀬観梅(其五)	1213
続編 160	天保2/2/29	小石櫟園	続編406	初節句の京人形	1214
続編 161	天保2/4/2	小石櫟園	続編408	山陽の威勢、尾州侯にも勝る	1215
続編 162	天保2/4/2	梅颯	続編410	聿庵の江戸詰	1216
続編 163	天保2/4/16	小石櫟園	続編412	聿庵の江戸行に就て	1217
続編 164	天保2?/6/26	村瀬藤城	続編414	村瀬家の経紀(其二)	1218
続編 165	天保2/8/10	村瀬藤城	続編417	牧百峯と村瀬家の縁談	1219
続編 166	天保2/8/15	坂上桐陰	続編421	中秋無酒	1221

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 167	天保2/8/28	田辺玄々	続編422	蓮見のあとは丹波屋	1222
続編 168	天保2/9/1	村瀬藤城(土錦)	続編424	星巖と同伴して来れ	1223
続編 169	天保2/9/7	小石櫓園	続編425	病後の脚試し	1223
続編 170	天保2/9/15	秋吉雲桂	続編427	「通議」の整理(其三)	1224
続編 171	天保2/9/17	秋吉雪桂	続編428	「通議」の整理(其四)	1225
続編 172	天保2/12/6	小石櫓園	続編430	姫路藩にて開講	1226
続編 173	天保2/12/7	篠崎小竹	続編431	「詩鈔」の整理	1226
続編 174	天保2/12/10	小石櫓園	続編434	雲華を主賓として(其一)	1228
続編 175	天保2/12/10	小石櫓園	続編435	雲華を主賓として(其二)	1228
続編 176	天保2/12/10	小石櫓園	続編436	雲華を主賓として(其三)	1229
続編 177	天保2/12/14	小石櫓園	続編438	淀川の小鳧	1230
続編 178	天保2/12/17	小石櫓園	続編439	医者 of 病気	1230
続編 179	天保2/ /9	小石櫓園	続編441	蘭屋の教導	1231
続編 第五編 天保三年(53歳)					
続編 180	天保3/1/23	小石櫓園	続編443	「漫遊雑記」跋の添削	1233
続編 附13	天保3/1/24	小石	続編444	伝家墨宝詩巻の跋	1234
続編 181	天保3/1/28	小石櫓園	続編445	江戸行の熟談	1234
続編 182	天保3/2/13	村瀬藤城(土錦)	続編447	「壮悔堂文集」の買入	1235
続編 183	天保3/2/	小石櫓園	続編449	江戸行は断念(其一)	1236
続編 184	天保3/4/25	篠崎小竹,後藤松陰	続編451	枚方喰はんか舟の酒三杯	1237
続編 185	天保3/6/3	小石櫓園	続編454	ことしの梅は小粒	1239
続編 186	天保3/6/9	小石櫓園	続編455	塩田随斎の来訪	1239
続編 187	天保3/6/16	秋吉雲桂	続編457	いつもの症状	1240
続編 188	天保3/7/13	小石櫓園	続編459	酒を贈つて酒を貰ふ	1241
続編 189	天保3/7/14	小石櫓園	続編460	喀血後一ヶ月目に血痰	1242
続編 190	天保3/7/22	小石櫓園	続編462	病を冒して福井家の書画展観	1243

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 191	天保3/7/27	村瀬藤城(士錦)	続編466	喀血中に血の出るやうな忠告	1245
続編 192	天保3/8/26	後藤松陰(後藤俊蔵)	続編471	文事と諧謔	1247
続編 193	天保3/8/	聿庵	続編475	大患に就て	1249
続編 194	天保3/9/4	小石櫟園	続編477	借座敷の引払ひ	1250
続編 195	天保3/9/6	小石櫟園	続編479	添削のため肺気を動かす	1251
続編 196	天保3/9/8	小石櫟園	続編480	阿片を用ゐずに安眠	1252
続編 197	天保3/9/10	小石櫟園	続編481	脱肛・泌尿	1252
続編 198	天保3/9/11	小石櫟園	続編483	痢病は重からず	1253
続編 199	天保3/9/12	小石櫟園	続編484	血症再発の予防	1254
続編 200	天保3/9/13	小石櫟園	続編486	死生の歧路	1255
続編 201	天保3/9/14	小石櫟園	続編487	又も診らしく安眠	1255
続編 202	天保3/9/16	小石櫟園	続編489	小竹の病氣見舞	1256
続編 203	天保3/9/17	小石櫟園	続編490	喀血の予感	1257
続編 204	天保3/9/18	小石櫟園	続編492	百峯の為に相談事	1258
続編 205	天保3/9/20	小石櫟園	続編493	芙蓉の一花(歿前三日、絶筆)	1258
続編 諸家の弔辞其他(櫟園宛)					
弔辞 1	天保3/7/18	頼杏坪→小石元瑞	続編498		1261
弔辞 2	天保3/8/14	頼聿庵→小石元瑞	続編500		1262
弔辞 3	天保3/9/23	頼杏坪→小石元瑞	続編503		1263
弔辞 4	天保3/9/24	篠崎小竹→小石元瑞	続編504		1264
弔辞 5	天保3/9/26	大塩中斎→小石元瑞	続編505		1264
弔辞 附	天保3/9/30	大塩中斎→秋吉雲桂	続編506		1265
弔辞 6	天保3/9/28	牧百峯→小石元瑞	続編508		1266
弔辞 7	天保3/9/29	篠崎小竹→秋巖	続編509		1266
弔辞 8	天保3/9/28	中村元亮→小川元瑞	続編510		1267
弔辞 9	天保3/9/29	牧百峯→小川元瑞	続編513		1268

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
弔辞 10	天保3/7/28	橋本竹下→	続編514		1269
弔辞 11	天保3/10/1	頼杏坪→小石元瑞	続編515		1269
弔辞 12	天保3/10/4	牧百峯→秋岩	続編518		1271
弔辞 13	天保3/10/6	牧百峯→小石元瑞	続編519		1271
弔辞 14	天保3/10/13	頼聿庵→小石元瑞	続編520		1272
弔辞 15	天保3/10/15	頼杏坪→小石元瑞	続編523		1273
弔辞 16	天保3/10/14	頼采真→小石元瑞	続編525		1274
弔辞 17	天保3/11/13	雲華→小石元瑞	続編527		1275
弔辞 18	天保3/閏11/22	後藤松陰→小石元瑞	続編529		1276
弔辞 19	天保3/閏11/23	篠崎小竹→小石元瑞	続編530		1277
弔辞 20	天保3/12/7	大塩中斎→小石元瑞	続編532		1278
弔辞 21	天保3/12/21	篠崎小竹→小石元瑞	続編533		1278
続編 年代未考					
続編 206	/12/10	村瀬藤城	続編535	「淳和法帖」の売物	1280
続編 207	/9/2	村瀬藤城	続編536	真山民の詩集	1281
続編 208	//	村瀬藤城	続編538	茶山への往訪	1282
続編 209	/12/17	村瀬藤城(土錦)	続編538	詩稿の添削に就て	1282
続編 210	/2/27	村瀬藤城(村瀬平助)	続編540	婁堅・顧昉の画幅	1283
続編 211	/6/7	小石櫟園	続編541	鞍馬のあまご	1283
続編 212	/2/15	小石櫟園	続編542	海獺の肉	1284
続編 213	/ /30	小石櫟園	続編543	文稿	1284
続編 214	/6/25	小石櫟園	続編543	「妾に恨みがあるならば」	1284
続編 215	/4/21	小石櫟園	続編545	「白雪」と「通鑑」	1285
続編 216	/5/2	小石櫟園	続編545	端午祝の破魔弓	1285
続編 217	/4/21	小石櫟園	続編547	硯匣の銘	1286
続編 218	文化10頃/ /	小石櫟園	続編548	一日に記文二篇と書五幅	1287

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 219	/6/4	小石櫨園	続編549	フラスコの酒	1287
続編 220	文政8/5/14	小石櫨園	続編550	杏子と小鯔鮓	1288
続編 221	/4/晦	小石櫨園	続編550	端午の茅巻	1288
続編 222	/2/27	小石櫨園	続編551	花候の注進	1288
続編 223	/ /16	小石櫨園	続編552	酔へば即ち眠る	1289
続編 224	/3/24	小石櫨園	続編554	竹洞の招待へ	1290
続編 225	/ /	小石櫨園	続編555	詩評に答へて	1290
続編 226	/4/22	小石櫨園	続編557	伊丹の唼酒六種	1291
続編 227	天保3?/5/24	秋吉雲桂	続編558	不眠症の投剤	1292
続編 228	/6/29	秋吉雲桂	続編559	令児の怪我は	1292
続編 229	/3/19	秋吉雲桂	続編560	鮒鮓とじねんじょ	1293
続編 230	/3/27	秋吉雲桂	続編561	餅の代りに牡丹餅	1293
続編 231	/3/17	秋吉雲桂	続編562	食事不調	1294
続編 232	/2/20	秋吉雲桂	続編563	室町の貸屋	1294
続編 233	/ /21	秋吉雲桂	続編564	のけもの仲間	1295
続編 234	/ /22	秋吉雲桂	続編564	大坂便は武内確斎へ	1295
続編 235	/1/20	秋吉雲桂	続編565	「鼠説」の添削	1295
続編 236	/ /15	秋吉雲桂	続編566	雲華を送る詩	1296
続編 237	/ /11	秋吉雲桂	続編567	刀の買入	1296
続編 238	/ /5	秋吉雲桂	続編568	春琴は不在	1297
続編 239	/ /	秋吉雲桂	続編569	章声の幅	1297
続編 240	/ /5	秋吉雲桂	続編570	遊興はお断り	1298
続編 241	/12/8	秋吉雲桂	続編571	病後同士	1298
続編 242	/1/23	秋吉雲桂	続編572	「留侯論」の講義	1299
続編 243	/7/10	秋吉雲桂	続編573	しる飴	1299
続編 244	/10/6	秋吉雲桂	続編574	口に合はぬ酒(其一)	1300

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 245	/10/13	秋吉雲桂	続編574	口に合はぬ酒(其二)	1300
続編 246	/12/19	秋吉雲桂	続編575	八幡牛房	1300
続編 247	/10/21	秋吉雲桂	続編576	教育法一斑	1301
続編 248	/11/23	秋吉雲桂	続編577	難産の見舞	1301
続編 249	/11/24	秋吉雲桂	続編578	女房にも喰はさぬ	1302
続編 250	/11/26	秋吉雲桂	続編579	病氣と草根木皮	1302
続編 251	/11/3	秋吉雲桂	続編580	瓢(其一)	1303
続編 252	/11/3	秋吉雲桂	続編580	瓢(其二)	1303
続編 253	/10/29	秋吉雲桂	続編581	酒軍の副将	1303
続編 254	/10/24	秋吉雲桂	続編582	酒代を返して	1304
続編 255	/9/18	秋吉雲桂	続編583	西阜へ譲る酒	1304
続編 256	/8/29	秋吉雲桂	続編583	医病と医国	1304
続編 257	/4/19	秋吉雲桂	続編584	庭木と火鉢	1305
続編 258	/閏 /14	秋吉雲桂	続編585	「快雪時晴」の額面	1305
続編 259	/7/13	秋吉雲桂	続編586	到来物の裾分	1306
続編 260	/7/11	秋吉雲桂	続編587	病後の小児	1306
続編 261	/4/9	秋吉雲桂	続編587	病人の全快祝	1306
続編 262	/7/2	秋吉雲桂	続編588	会読は残暑中延期	1307
続編 263	/5/11	秋吉雲桂	続編589	借座敷	1307
続編 264	/12/15	秋吉雲桂	続編591	貧僧の重ね斎	1308
続編 265	/ /	梅颯	続編592	詠草は景樹へ	1309
続編 266	/5/7	聿庵	続編593	宛名の「様」の字	1309
続編 267	/2/25	三穂	続編594	上京延引は遺憾	1310
続編 268	/ /	三穂(みを)	続編595	帰京に臨みて	1310
続編 269	/3/11	篠崎小竹(篠長左)	続編597	清水坂にて別れてから	1311
続編 270	文化9?/2/16	篠崎小竹	続編598	悦山銘の蟹硯	1312

書翰No.	日付	宛先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 271	/2/7	篠崎小竹	続編599	美濃の蜂谷柿	1312
続編 272	//	篠崎小竹	続編600	索麴	1313
続編 273	//	篠崎小竹	続編600	文評	1313
続編 274	//	篠崎小竹,武内確斎	続編601	伏見の桃見	1313
続編 275	/10/12	篠崎小竹,武内確斎	続編602	壬生菜	1314
続編 276	文政2?/10/8	篠崎小竹,武内確斎	続編603	「一斗百疋」と「李杜百篇」	1314
続編 277	/3/尽	武内確斎	続編605	干鰯と若狭鯛	1315
続編 278	/3/8	武内確斎	続編606	みやげの一品	1316
続編 279	/6/28	後藤松陰(世張)	続編607	伊丹酒の伝授	1316
続編 280	//	後藤松陰(世張)	続編609	季鷹よりの加茂酸茎	1317
続編 281	/11/26	雲華	続編610	一瓢を携へて	1318
続編 282	//	雲華	続編610	柏葉亭にて一会	1318
続編 283	/12/27	坂上桐陰(長古堂)	続編612	黄百家の水墨山水	1319
続編 284	//	坂上桐陰	続編614	酒の附札は平塚宛	1320
続編 285	//18	田辺玄々(伯本)	続編615	酒と同時に川魚	1320
続編 286	/6/13	田辺玄々	続編616	星巖・藤城と対酌	1321
続編 287	/9/22	月峰	続編617	介石と対幅にて出品	1321
続編 288	/3/13	久米牀山	続編618	嵐山の花と江州の鮎	1322
続編 289	/7/11	安藤一郎	続編619	病後の揮毫	1322
続編 290	/5/21	?	続編620	忙裡の茶説	1323
続編 291	/9/13	?	続編622	詩媒の剣菱	1324
続編 追補					
続編 292	文化9/1/14	篠崎小竹(篠崎長左衛門)	続編625	淡路遊歴	1325
続編 293	//	篠崎小竹	続編628	篆印の改刻 同	1327
続編 294	文化10/5/9	篠崎小竹(承弼)	続編629	「草彙」の出版に就て(其一)	1327
続編 295	文化13/7/8	篠崎小竹(承弼)	続編631	「草彙」の出版に就て(其二)	1328

書翰No.	日 付	宛 先	巻・頁	タイトル	PDF頁
続編 296	文政12/8/4	草場珮川	続編633	その詩稿を関して	1329
続編 297	天保3/9/12	篠崎小竹	続編635	「山陽詩鈔」の序文	1330
続編 298	文化5/2/30	菅茶山	続編638	「福山志料」及長崎露艦事件	1332
続編 299	文化11/10/19	広江秋水(広江常蔵)	続編644	竹田邂逅の図幅に添へて	1335